明治三十五年六月十五日發行

（明治二十年十一月）本會創立

第三種郵便物認可（明治廿六年四月四日）　毎月一回十五日發行

內務省許可（明治廿一年二月廿八日）

婦人衛生雜誌

第百五拾壹號

私立大日本婦人衛生會

婦人衛生雜誌

第百五十壹號　目次

●本會七月例會報告

來七月五日(第一土曜日)午後正一時より晴雨に拘はらず

麹町區虎之門内東京女學館講堂に開く御親族御知友御誘引有之度候

但時間厲行●衣服御質素の事●當日の講師左の如し

家庭看護法(前會の續)　醫學博士　三宅秀君

外一名

明治三十五年六月

私立大日本婦人衞生會

私立
大日本婦人衛生會
設立趣意書

凡そ人として此世にありては徒に生けるのみをもて足れりとするにはあらずかならずや智識を磨き人たるの本分を盡くし幸福快樂のうちに一生を送らんことを皆ともに希はざるはあらざれども其身健康にあらざれば此生活を得んといと易からずこれ衛生の道の一日も忽にすべからざる所以なりとす

抑も〳〵衛生の法は一にして足らずとはいへども衣食住の改善育兒及看病法等の如きはいとも緊要の事にして皆吾等婦人のもつはら擧るべき所其責任重しと云ふべし今や婦人の合相率て起り婦人社會も漸く其の面目を改めんとするは實に喜ばしきことなり然れども夫の衛生の事に至りては更に注意を惹かざるものゝ如くまことに口惜しきことなり因りて頃日同志の婦人相ひ謀り一會を設け名けて私立大日本婦人衛生會といひ每月一回集會を開き學識經驗ある人々を招請して衛生上諸般の講淡演叙談話を聽き互に相研究し尙之を筆記して冊子を編輯し會員に分ち聊か同胞の爲めに盡すあらんとす茲に本會旨趣の梗概を敍べて廣く江湖の諸姉妹に告げ其贊成を仰ぐことしかり

明治二十年十一月

首唱者總代

私立
大日本婦人衛生會規則
（明治卅一年十一月改正）

●第一章　目的

第一條　本會の目的は汎く婦女子をして人生の健康を保持する方法を講究し衛生上の智識を開發せしめ隨て社會全般の幸福を增進するにあり

●第二章　名稱位置

第二條　本會は私立大日本婦人衛生會と稱し之を東京に置き地方に便宜支會を設く

●第三章　會員

第三條　本會員たらんと欲する婦人は何人にても入會することを得

第四條　入會の節は姓名族籍住所及會員の種類を明記し本會事務所に申込まるべし入會者には會員章を交付す（交付手續卷末に詳なり）入會後轉居等あるときは速に事務所に報知せらるべし

第五條　會員を分ちて終身、特別及通常の三種とす、終身會員は一時に金廿五圓以上特別會員は一ケ月金三拾錢以上、通常會員は一ケ月金拾五錢を納むる者とす

第六條　男子にして本會の旨趣を賛成する者は之を賛成員とす其會費は本會員に同じ但本會に功勞ある者又は本會に於て特に賛成員たることを望みたる節は役員の協議に依り無會費とすることあるべし

第七條　會員は本會に於て每月發刊する雜誌を無料にて受ることを得

第八條　退會せんとする者は其旨本會事務所に報知し死亡する時は親戚知友より通知せらるべし但既納の會費は總て返戻せず

●第四章　役員

第九條　本會に推戴員を置き其中より總裁一名を奉卜皇族の妃殿下に願出るものとす

第十條　本會に左の役員を置く
會長一名、副會長一名、幹事七名、評議員二十五名、書記若干名

第十一條　會長副會長幹事評議員は隔年三月の總會に於て會員の投票を以て之を選擧し書記は幹事の推薦に依り會長之を命ず但書記は都合に由り會員外の婦人若くは男子に託することあるべし

第十二條　會長は本會を總理し副會長は會長を補佐し會長事故ある時は之を代理し幹事は會務を掌理し評議員は重要なる會務を評議し書記は役員の命を受け諸記錄雜務を掌る
幹事の分課を設け第一會計　第二編輯出版、第三庶務とす

第十三條　會長の見込を以て役員外特に會員中より臨時指名委員を置くことあるべし

第十四條　會長副會長幹事評議員の任期は二ケ年とす但期滿選することを得若し任期中缺位を生ずるときは次點者を以て補缺す

第十五條　會長副會長幹事評議員は無給とす書記には相當の報酬を給す

●第五章　集會

第十六條　集會は例會總會及評議員會とす集會は八九月を除くの外每月一回とし通常第一土曜日午後一時より開會するものとす總會は三月に之を開く若し急要の事あるときは臨時に總會を開くことあるべし評議員會は時々開會須要の事項を評議するものとす

第十七條　例會は學識經驗ある人々に衛生上の講義演說談話を囑托し會員をして隨意聽講せしむるものとす

第十八條　會員は家族の婦女若くは知己の婦人を本會々場に誘致し講談演說等を傍聽せしむることを得（但衣服は總て質素たるべきこと）

第十九條　講談演說等は男子の傍聽を禁ず但贊成員若くは會員に緣故ある男子は此限にあらず

第二十條　規則の改正を要し又は重要の事件あるときは總會に於て議定するものとし議定は總て多數決とし可否同數なるときは議長之を決するものとす

第廿一條　每年三月總會に於て會計の收支決算並に庶務の概要會員の增減等を報告すべし

●第六章　會計

第廿二條　本會の所有金は本會の名義を以て三井銀行に預くるものとす但些少の金額に限り日用支出の爲め事務所に引出置くことを得

第廿三條　會計の收支は總て會計擔任の幹事檢印を要するものとす

第廿四條　會計は一ケ年每に決算し翌年三月總會に報告すべし

●第七章　支會

第廿五條　地方に於て本會々員十名以上發起者あるときは其規則を定め本會長の承認を受け支會を設立することを得支會は私立大日本婦人衛生會某支會と稱し其規則は本會の規則と抵觸せざる樣起案すべし

第廿六條　本會々員にして支會を設立せんとするときは發起者の姓名を記載して申出べし設後員數增減あるときは其姓名を支會より本會事務所に報告すべし本會々員にして支會に加入したる者の會費は本會に納付することを止め支會の規定に依るものとす

第廿七條　支會には支會限りの會員を置くことを得

第廿八條　支會に加入したる本會々員に配付すべき本會の雜誌は支會に同送すべきを以て其實費を支會より本會に送付すべし支會限りの會員にして雜誌を請求する者に就きても亦同じ

第廿九條　本會は集會の都度其狀況を本會に報告すべし

●第八章　雜件

第三十條　本會は每月一回雜誌を發刊し每會に於ける衛生上の講義演說談話等の筆記及內外誌報本會の諸報告等を揭け之を會員に配付すべし支會の報告あるとき又同じ

第卅一條　會員又は會員外の者にして金錢若くは書籍物品等を本會に寄附する者ある時は本會々長の名を以て謝狀を贈り寄附者の姓名及品目を添冊に登錄し尙

本會雜誌を以て報告すべし第卅二條　會費金は受領證を交付すべしと雖も地方會員にして小爲替又は郵券にて納むるものは受領證送費として別に返信料を添へらるべし（郵券迄一割增）第卅三條　會費は東京府下に限り毎月領收人差出すべし地方會員は總て前金とし小爲替にて本會事務所々在の郵便局（牛込局宛）振出しあるべし第卅四條　會員中若し本會の障害となるべき所爲ある者又は屢々會費を督促するも納付せざる者あるときは會長評議の決議を經て除名し若くは廣告することあるべし第卅五條　本規則は會長の意見又は會員二十名以上の贊成に依り總會の決議を經るに非されば之を更正することを得ず

東京市牛込區矢來町三番地

私立大日本婦人衛生會

●役員姓名

總裁　小松若宮依仁親王妃　周子殿下

會長　侯爵夫人　鍋島榮子

副會長　濱尾作子

（いろは順）

幹事　鳩山春子
仝　羽田三緒子
仝　穗積歌子
仝　岡田總子
仝　高木かう子
仝　松平芳子
仝　三浦敎子

評議員　石川さだ子
仝　濱田捨子
仝　仁禮壽賀子
仝　四[illegible]升子
仝　男爵夫人　四[illegible]郁子
仝　德富節子
仝　緒方悅子
仝　男爵夫人　川口直子
仝　男爵夫人　加藤鈴子
仝　吉武輝枝子
仝　子爵夫人　田中伊代子
仝　高橋瑛子
仝　丹波貞子
仝　男爵夫人　南部隈子
仝　中濱芳子
仝　岡山とし子
仝　山本多穗子
仝　子爵夫人　松前藤子
仝　子爵夫人　松井正子
仝　馬渡玉子
仝　伯爵夫人　松平充子
仝　子爵夫人　秋元宗子
仝　三宅藤子
仝　宮木樂子
仝　宮下咲子

●支會　千葉、新潟、山形、宇津宮、茨城

本會特別贊成員

（並に本會に於て講演せられし諸氏）

醫學博士　入澤達吉君
理學博士　飯島魁君
ドクトル　伊澤信平君
地方視學官　色川圀士君
醫學士　伊東祐彦君
ドクトル　飯盛挺造君
醫學博士　伊藤隼三君
理學博士　石川千代松君
赤十字社 內科主任　岩井禎造君
新潟　池原康造君
同　池田潔君
前文部大臣　濱尾新君
醫學博士　濱田玄達君
法學博士　鳩山和夫君
東京　萩原[illegible]四郎君
醫學博士　芳賀榮二郎君
衛生局長　長谷川泰君
新潟　長谷川一辭君

小兒科　小原頼之君
醫學士　林春雄君
醫學博士　緒方正規君
步兵少佐　堀内文次郎君
醫學博士　土肥慶三君
醫學博士　岡田和一郎君
醫學博士　大澤謙二君
醫學士　大西秀治君
醫學博士　大澤岳太郎君
一等藥劑官　恩田重信君
醫學士　若杉喜三郎君
男爵　加藤弘之君
ドクトル　加藤照麿君
醫學士　賀古鶴所君
醫學博士　河本重次郎君
醫學博士　梅村清德君
醫學博士　片山國嘉君
醫學士　川上雅晁君
ドクトル　金杉英五郎君
醫學士　笠原光興君
醫學博士　高橋順太郎君
ドクトル　高山紀齋君
醫學博士　高木兼寛君
法學博士　高木豊三君
醫學士　田代義德君
新潟　田代亮助君
男爵　高崎正風君
醫學士　竹中成憲君
醫學士　高田耕安君
[illegible]　高橋辰五郎君
藥學博士　丹波敬三君
醫學士　高橋良而君
藥學博士　田原良純君
醫學博士　坪井次郎君

三等軍醫正　星野篠光君
一等軍醫　横井忠國君
大日本教育會長　辻新次君
理學博士　坪井正五郎君
中央衛生會長　長與專齋君
ドクトル　長與稱吉君
男爵　南部甕男君
藥學博士　長井長義君
新潟　長井千尋君
醫學博士　中濱東一郎君
新潟　中村勇三郎君
醫學士　村松紘一君
醫學博士　隈川宗雄君
醫學博士　栗本東明君
醫學士　山田鐵三君
大審院判事　馬屋原彰君
[illegible]　山根正次君
岡山　山川春二君
醫學士　丸茂文良君
衛生試驗所技手　丸山長四郎君
松山病院　松山棟庵君
ドクトル　小柴信六郎君
盲啞學校長　小西信八君
鹿兒島　小泉貫君
醫學士　古川榮君
東京　布施正顧君
內務省衛生局長　後藤新平君
帝國大學教授　エ、ベルツ君
醫學士　甲野棐君
文部書記官　寺田勇吉君
子爵　秋元興朝君
前軍醫總監　足立寛君
ドクトル　新井吉芳君
新潟　阿部方四郎君

高崎醫會長　土谷全次君
産科婦人科　水原漸君
醫學博士　佐々木政吉君
醫學士　淺田央君
ドクトル　朝倉文三君
ドクトル　朝山義六君
醫學博士　佐藤三吉君
醫學士　櫻井郁二郎君
醫學士　佐藤恒久君
ドクトル　佐伯理一郎君
ドクトル　[illegible]順次郎君
醫學士　神保三郎君
醫學士　櫻井恆次郎君
醫學士　北村精造君
ドクトル　北川乙二郎君
醫學士　木下正中君
醫學士　北島小太郎君
醫學博士　北里柴三郎君
醫學博士　三浦守治君
醫學博士　三浦謹之助君
小兒科專門　宮本仲君
理學博士　箕作佳吉君
醫學博士　三島通良君
醫學博士　三宅秀君
醫學士　三輪信太郎君
新潟　水野欽君
伯爵　土方久元君
醫學士　島村俊一君
醫學博士　弘田長君
ドクトル　須川卓爾君
ミス、ヒユース
醫學士　笹川三男三君
醫學士　波多野傳君
醫學博士　矢[illegible]秀三君
八王子　和川義貫君



（備考）役員姓名は裏面にあり

私立大日本婦人衛生會　高崎支會發會式日撮影

●寫眞の解

前より第二列の腰掛にあるは高崎支會役員にして他は會員及贊成員等なり今向つて左より即校舍の傍より藤棚の方へと順次姓名を掲ぐれば

(一)評議員　矢島たい子
(二)幹　事　大澤ふく子
(三)評議員　粟野まろ子
(四)評議員　田邊喪子
(五)幹　事　三橋ひろ子
(六)幹　事　齋藤れう子
(七)幹　事　土谷ひやく
(八)支會長　井ノ口德子
(九)副會長　星野きよ子
(十)幹　事　清水かね子
(十一)幹　事　林　暋智子
(十二)評議員　今井ぶん子
(十三)評議員　宮田たか子
(十四)評議員　馬渡なか子
(十五)評議員　横井　升子
(十六)評議員　松本　泰子
(十七)評議員　木下芳枝子
(十八)評議員　相川すが子

講演

家庭看護法 (木曾講演)

醫學博士 三宅秀 講述
佃速記事務所員 田路輝子 速記

此前家庭看護法を初めて此處て御話を致しました時には、病人の食物中乳及び乳から製しました食物に就て御話致して置きました、今日は其續きて、肉、肉類、及び其肉類から拵へました病人の食物の話を致します。

此前にも申しました通りに、日本ては從來病人の食物には、輕いものを食べさせると云ふことを本主意に致して居りましたから、脂肪氣のあるものや肉類等は皆重い食物てありまして、病人には一切いけない、成るべく輕い野菜物位にして、病人には肉類をあまり食べさせない方が宜いと云ふ習慣がありましたが、これは誤りてあつて、若し其病人が肉を食べて障らず、肉を食べて必ず身體が丈夫になると云ふならば、肉類、及び肉類から製した所の食物を病人にあたへるのは必要なことてあります。

そこて今此に申す所の肉と云ふのは、鳥獸の肉と、それから魚の肉をも共に肉と申すので、普通肉と云ひますと鳥獸の肉ばかりで、魚は別のものゝやうてあるが、食物の種類別を致します時分には牛肉だから又魚鳥の肉だからと云つて區別はないのてありますから、先づ總稱して肉類の御話と致します、然し鳥獸の肉と魚の肉と比べますと云ふと、魚の肉の方がどうしても水氣が多くて、鳥獸の肉の方が水氣が少ない、且つ幾分か肉が硬く強くあります、尤も鳥獸の肉の中ても例へば鷄の肉に致しても、或は牛の

肉に致しても、若い鳥や若い獸物は肉が水氣が多くて軟かであります、大牛と犢牛と比べますれば、無論犢牛の方が水分が多くつて軟かであります、鳥でも其通りて、若鳥或は牝鷄(かしわ)と云ふて、昔から病人に食べさせますけれども、牝と牡ては牝の方が軟かい、老鳥と雛鳥とは無論雛の方が軟かい、そこて日常吾々の普通の食物に致しますのは、水氣の少くない味の能い方を撰びますが、病人には味のよいと云ふよりは消化易い消化の宜いのを第一にとりますから、鳥獸共に肉なれば若い肉、水氣が多く味は少し惡いけれども、消化易い所から若肉を撰むやうになります。

それから鳥獸肉と魚の肉と比べますと云ふと、魚の肉の方が幾分か水氣が多うございますからして、旨味は鳥獸肉の方にありますけれども、軟い點から申しますれば鳥獸肉よりは魚肉の方が軟かであります、然し消化と云ふ點から云ふと魚の肉の中には幾分か邪魔になるものがある、邪魔になると云ふのけ脂肪てす、脂肪も食物としては至極結構のもので、病人を養ふに必要なものであります、けれども、割合に脂肪の部分が多いと、其脂肪は病人の腸胃ては消化し得ませぬから、古くから日本て申す通り凡て肉類は病人には食べさせないと云ふ誤りを生じて來たのでありませう、段々研究をして見ますと、魚の肉の脂肪さへ少なうございましたなれば、鳥獸の肉と効用の點に於ては一向變らない、それてありますから食べ慣れて居る魚てありますれば、病人に魚を食べさせることは至極結構なことてある、却て鳥獸の肉であると食べ慣れない者があるから、是非食べなければならない塲合に於て、一方は食べ慣れて居り、一方は食べ慣れて居らぬから意外の結果を生ずることもある、又多くの魚の肉の中から身體の營

養になる魚肉を撰んで食べさせることは、病人に就いて第一に着眼すべき所であると思ひます。

肉類に付いて申しまするど、從來俗間では赤身白身と云ふことを申しますが、赤身と云ふたは則ち肉の部分で、白身と云ふは實は脂肪なので、其の中に脂肪が澤山あるので、白身の方は脂肪が多いけれども消化は惡いものであると云ふことを最初に心得て、肉の生である時に白身の部は病人には停滯ていけぬものであるから十分撰り分るが宜しい、然し肉の中には白い身の肉と赤い身の肉とあつて、同じ獸類で、牛の肉でも親牛の肉であれば赤うございます、犢牛の肉であれば赤身が薄うございます、まるで種類の違つた動物になりますと云ふと、兎の肉などは眞白でございます、丁度鷄の肉と同じやうであります、今度は鳥の中で申しますれば鷄や鴨の肉と鬪鷄や黄鷄の肉と比べますと、黄鷄は白く鴨は赤い、魚の方であれば鯛鮃の肉は白くして鮪鰹は赤うございます、左様致しますと肉の種類の中に赤い身の肉に白い身の肉とあるが、赤い色の肉の方は病人に食べさせるには消化が惡い、白い肉の方が病人に消化が宜しい、概してさう云ふことになつて居る、矢張り此事は病人を養ふに就て大切な點でありますから、歐羅巴あたりでも非常に研究して略々間違ないやうであります、けれども強ち白い身の肉を以て病人を養ふのが宜い、赤い身の肉は病人に宜しくないと云ふやうに一徹に固つてしまふと正しくないことになります、然し大體の所で云へば赤い身と白い身と比べますれば白い方が病人に與へるに適して居ると云ふことになつて居ります、皆樣の記憶し易いために此處にも白い身の方が宜いと云ふことを申して置きます、又一尾の魚でも脊の方の一節は色か暗色で腹の方の肉は淡い色を爲して在る詰り色の淡きは脂肪の

多ひ部分でありますからそれは病人には宜しくない。

それから肉の中で極く邪魔になるもの、吾々が食べても平常邪魔になるものは筋であります、此筋と云ふものは堅いものであるからして、なか〳〵健康な歯の善い人でも噛みきれないやうなものであつて、さうして噛みこなすことが出來ない位でありますから、從つて消化が惡い、であるから堅靱な筋の多い肉は病人に食べさせて惡いと云ふことは言はずして分ることであります、病人は一體身體が疲勞れて居り、齒を以てカチ〳〵と充分に噛んで食べると云ふやうなことも出來ず、（殊）此邊の肉も疲れて居て食べるのに難義でありますから、總て食物を食べるに難義のないやうに調理をして食べさせなければならない、然るに古雜巾のやうな堅い肉を與へては却て病人の害になります、然らば其筋と云ふものは全く有害無効のものであつて、筋は皆抜き去るが宜いかと云へば強ちさうではない、能く肉などを叩いて、或は肉をこなす器械がありますが、其器械をクルクル廻してやると、筋だけはとれて仕舞ふやうな器械がありますが、さうして捨てゝ仕舞ふ、そこで筋と云ふものは全く無効であるかと云へば、筋の中の部分には病人を養ふ力のあるものがある、これは噛んではどうしても食べられないものでありますが、煎じて與へると軟かになつて筋其ものも食べられるやうになる、煎じだすと滋養分が澤山出て參りますから、筋の部分でも決して無駄に棄てるべきものではない。

それから肉の中に鹽分と申して鹽氣でありますが、肉には大抵少しつゝの鹽分は有して居ります、吾々は鹽や砂糖の如きもので十分に味を付けて日々の食物を食べならつて居りますから、どうも肉の中にあ

る持前だけてはおいしくない、けれども肉の中に持つて居ります鹽と云ふものに、矢張り身體を養ふものでありますから、肉食の獸類、例へば猫のやうな動物、虎或は獅子などゝ云ふものは皆肉には鹽をつけずに食べて居る、可笑しなお話をするやうでありますが、能く小供を威す時分に、お化が出る大入道が出ると云ふて、其時の言葉に妖怪が頭から鹽をつけて食ふと云ふことを申します、これは吾々の嗜好を以て妖怪の心を推測したので、妖怪は却て無鹽で宜しいと云ふて、生のまゝて食べるてありませう、然るを妖怪の心を推量つて斯様な俚語を云ふたものてありませう、吾々が食べる平常のものは、鹽氣若くは甘味を持つて居らなければならぬのてありますから、病人の口に合ふやうに適宜に鹽を加へるのが宜しい、それから砂糖のことも序でゝありますから申して置きますが、鹽氣は多少肉の中にあるが砂糖氣はありませぬ、此前申した乳の中には砂糖の分は含んて居りますが、今日の御話の肉の中には砂糖分は殆どありませぬ、故に甘いものゝ好きな人には幾分か砂糖を加へて調理する、實際吾々が料理して食べましても砂糖を幾分か入れました方が肉が軟かいかと思はれます、砂糖醬油に致して、肉を燒くなりどうなりして健康な吾々が食べるにも其方が宜しい、病人には肉の軟かい方が宜しいのてありますから、砂糖を加へるが宜しい、砂糖は決して病人に食べさして害はありませぬ。

それから肉の古いと新しいのてありますが、肉は無論新しいのが病人に食べさせるには宜しい、然し如何せん餘り新し過ぎて屠つたばかりの肉であると、肉は硬くありますから硬いのは病人には適せぬのであります、故に幾らか肉が新しいならば相當の時間を經つたものを用ゆるが宜しい、西洋には妙な風が

ありまして、野獸の猪や鹿等でありますか、或は雁鴨の如きものを銃獵にでも行つて獲つて參りますと、數日間軒端にさらして置きまして、皮を剝いて見ると血が乾いて黒くなつて居るやうなものを結構なお料理として食べて居ります、野にある鳥獸を獲つて來た時分には、ズツト古くなつて殆ど腐敗しかゝつたものを料理して食べさせるが、これは病人には惡いと云ふことを申して居ります、是れは外國の習慣でありますが、あまり新しいのもいけませぬが古いのも病人には宜くないと云ふことになつて居ります。

日本で昔から用ゐ來つて居る魚類、魚肉は一體に鳥獸肉よりは持久の惡いもので、早く腐敗しますからこれは新しいのが宜しい、追々刺身とか（生肉の所で刺身の話などは申上げますが）アラヒ等にするのは目前で生きて居る魚を屠つたのでなければアラヒにはならない、故に病人等にはアラヒにして食べさせることは決して惡いことではあるまいと思ひます。

そこで昔から日本で言ひ來つて居る言草には、色々肉類や何かゝそれ〴〵格別に病氣を癒す作用を有して居るやうに申しふらしてありまして、漢法のお醫者でも學問のある醫者でありますとそんな俗諺を信じては居りませぬが、學問をしたことの無い醫者であると、古い漢法醫者等は素人と同じやうな間違つたことを申して居りまして、素人と同じやうな迷信を勸めたり致して隨分可笑しいことが幾つもあります、例へば誰か懇意な人が產をした時には、產の見舞ひに鯉をやる、鯉を濃漿にして食べると乳が能く出ると云ふやうなことを俗に申して居りますが、鯉や餅を食べると乳が出ると云ふも一つの迷信で、鯉や餅を食べたからとて出ない乳が出ると云ふやうな

譯はありませぬ、鮒等は之を鱠にして拵へて食べると痢病が癒ると云ふことを申すが、隨分是等は痢病の爲には却て危險な話だと思ふ、痢病の病人が一層惡くなるたらうと思ふ、決して賞めべきことではない、害ありとして誡めて宜しいことゝ思ふ、斯の如く往々俗說の中には誤りが世間に流布して居ります、其誤りは解いて傳へないやうにしなければなりませぬ、それから又疱瘡を患つて、疱瘡の勢の惡ひ則ち山をわげないと云ふ時分に鰻を食べる、するとズット病人の勢が附いて山をわげるなどゝ云ひますが、昔時種痘のない時分には必ず疱瘡は一生に一度のお役目のやうになつて居りましたから、疱瘡をする時分に十分に發生して山をわげないのは宜しくないとなつて居りましたから、色々の迷をして鰻のやうな性分の强いものを食べると、衰へて居つた疱瘡の病人も力が附いて山をわげるなどゝ申したのでありませう、今日は種痘さへ十分にやつて居れば、我帝國には一人の患者をも發生せしめないことが出來るのでありますから、鰻と疱瘡との關係あるとなどは知らずとも宜しいやうなことになりましたけれども、さう云ふやうな誤りが未だ澤山世間に流布してあるので、昔は殊に多かつたものと云ふ例を此處に引いて御話をするのであります、一時西洋流義の醫術が廣がつて參つた時分は、何もかも西洋の飜譯でありましたから、西洋の書物の中に書いてございませぬことは、我より進むで之を應用する勇氣がありませんで我國で古來用ゐ來つたものを用ゐると何となく因循の樣であるから、何事も西洋の眞似をした醫者の勸めで無理にも病人の食べ慣れないものを食べさせられると云ふことが二十年前にはあつたのであります、けれども今日では彼のベルツ君などの說に依つて——同君などは二十四五年も我國に居ら

れ、我國の情態を委しく知つて居られさうしてどうしても習慣を破ることは能くない、食べ慣れない物を病人に食べさせることは宜しくないと云ふことを看破られ、大學で學生を敎へられる時分にも、病人が食べならつたものを食べさせるが宜しいと云ふことて、刺身などは決して惡いものではない、魚肉を生で食べさせると云ふやうなことを致しますが、これは至極公平のことたらうと思ふのであります、昔から日本で病人に食べさせても宜しいとなつて居る魚類と申しますと、鯛、鱚、鮃、鰈、白魚、鯼などゝ云ふもので、又河魚なれは、鮎、鯉、等は病人に食べさせて宜しいと云ふことになつて居ります、是は輕い魚であるから宜しい、輕い重いと云ふことはどうして區別をしたかと云へば、輕いと云ふのは脂肪氣の少ないものを云ふので、果して分析して見ても今申した肉色の白い鯛や、鱚や、白魚は脂肪が少なうございますけれども、鯛などになりますと大層脂肪の濃いのもありまして、同じ鯛でも脂肪の少ないのと多いのとがございますから、病人に食べさせる時分には脂肪氣の少ない方が宜しいのであります、脂肪が少ないと云ふのはこれは分量で云ふて見ますると、魚の肉が百分あると脂肪は一分にも滿たないのが輕いと云ふので、脂肪氣の少ないのを輕いと申すのであります、病人に宜しいと云ふても鯛などは百分の三も脂氣のあるのがありますから、脂氣を食べさせたい、脂肪を含んだものを食べさせたいと云ふ病人には至極宜しいが、普通の病人には斯う云ふ脂肪氣の多いものはいけませぬ、脂氣の多い魚は何であるかと云へば、先づ以て鰻を數へたならば宜しい、鰻は脂氣の多いものであります、鰯、鮪などは脂氣が多い、さう云ふやうな脂氣の多いものは一切病人には食べさせて惡いかと云へば、強ちさう

でもない、病人の種類に依つては輕い魚ばかりでなく、タツプリ脂肪を含んだものを食べさせまして差支ないのみならず其脂氣が病人の營養になると云ふこともあります、さう云ふ病人には鰻でも鮪でも脂身を撰んで食べさせることがありますが、無論どう云ふ病人に脂氣の多いものが宜い、脂氣の少ないものが宜いと云ふ重い輕いの撰り分けは醫者に爲て貰はなければならない、素人が重いのが宜からう、或は輕いのが宜からうなど〻判斷しては甚だ危險であります、常に輕いのを撰ぶのは宜しいけれども、重いのを食はせて失策てはなりませぬから、平常鰻の好きな患者ですが之を食べさしてはどうでせうと云ふ如き問を發して、醫者の許容を得た上でなければ食べさせてはなりませぬ。

鰻は大變脂氣が多いと云ふことを例に引きましたが、極く脂氣の少ないものと比較すれば十一倍も十二倍も脂肪を含んで居る夥しく脂氣を含んで居ります、鰯なども非常に脂氣を含んで居る魚て、百分の六以上脂氣を含んで居ります、脂肪氣のあるものを好んで病人に食べさせると云ふのは危險のやうに思ひ、心配する人もありませうけれども、醫者が單純の油を藥に用ゐることがある、肺病などの病人には態々脂肪ばかり藥にして用ゆることがあります、肝油と云ふのは鱈の肝からとつた所の脂で、是を藥にして服ませて居るのでありますからさう云ふ場合には肉の中に程よく脂を含んで居るものが消化さへすれば宜しいのでありますから、自ら美味と思ふ食物に脂肪があるのは宜しいので、一も二もなく脂氣は食べてならぬと云ふのは間違てあります。

それから肉を食べます調理の方てありますが、前に申した通り肉は縱令軟い肉を撰んで採りましても、調理の具合が惡いと筋張つて硬くなり、病人には迚

も食べられないやうなものがあります、故に煮るにしても燒くにしても、成るべく軟かい肉が燒縮らぬやうに、煮締まらぬやうにして食べさせるが宜しい、それから蒸肉にして、肉を蒸して食べるのは燒過ぎ煮過ぎるの憂がありませぬから至極病人に食べさせるには宜しい、日本では肉類を蒸して食べる料理は少ないやうでありますが、肉を肉のまゝで蒸して食べることは調理法を知らぬせいか少ないやうでありますが、西洋流では蒸して食べるのが主です、所謂燒過ぎる煮過ぎると云ふ心配はありませぬから、蒸肉は最も消化がよくつて至極宜からうと思ひます、それから生で食べるのであります、今申した刺身アラヒなどゝ云ふものは至極宜しい、消化のし易きものでありまして、ベルツ君等は勸めて病人に食べさせて居ります、肉類を生で食べる方のことは、魚肉を刺身にして食べるのは日本人は慣れて居りますが、西洋人は獸肉の生を食べ慣れて居ります、鷄の肉や牛の肉を生で食べ慣れると大變宜しいさうであります、私は是迄餘り必要がありませぬから獸の生肉を食べたことはありませぬが、細かに刻むとか或は肉の中から生血のやうな赤い汁を絞つて飮ませることもありますが、私も万止むを得ぬ時はさう云ふものを食べるか知れませぬが、今日では未だ好ましくない食物のやうに思ふて居ります、けれども餘儀ない場合は藥と思つて食べます、甚だ消化がし易く滋養になるものでありますから病人には生の肉を食べさすると云ふことは決して怪むべきことではないのであります。

それから半熟に致して――鷄卵の半熟と同じに生と煮えたのとの間を能い具合にして肉を食べることがあります、鯛鮃の刺身を飯の上に載せ熱湯を注ぎて刺身飯として食することもあり又東京では何と云ふ

か知りませぬが、關西の方で申しますチリと云ふのがありますが、チリと云ふのは刺身のやうに切つて置いた魚肉を沸湯の中に入れるとチリ〳〵と縮んで、上皮だけが固つた中は生と云ふやうな、斯う云ふ食べ方があります、魚の肉でも鳥肉でも同じことで、斯う云ふのが誠に消化が宜しいと云ふ說もある、さうして肉を食べても宜しい、

それから肉を鹽漬に致したものでは、彼のハムであります、則ち薰腿なども餘り鹽からく漬けましたのは肉が締つて居つて病人には宜しくありませぬ、これも甘鹽にして極く新しく拵へた所のハムを食べさせることが度々あります、大學の病院などでも新しきハムを用意して置いて、醫者が命じて食べさせることがあります、醫者の命令でさう云ふ膳部を拵へて食べさせることがあります。

それから又肉を生で食べたり、或は煮燒して食べたりすることはそれだけにして置きませうが、肉を以て拵へて病人に與へる食物の中ではソップが一番廣く用ゐられて居る、前に言ふ通りどんなに軟かに拵へても、形があつては食ひにくうございますから、身躰の營養になるものを煎じ出して病人に食べさせる場合があります、然し此前發行になりました本會の雜誌の中でありましたが。

ソップと云ふものは毎も病人に食べさせるものであるから大變營養になると云ふ誤が世間に廣く行はれて居る、三浦博士が或時ソップはそんなに養ひになるものではない、これを食べると食氣が付くと云ふ位のもので、食氣が付けば滋養になるものが食べられるやうになるから、食氣の少ない病人に宜しいのであると云ふ其演說を見て、成程直接養ひになるものでないと云ふことを悟つた。

と斯う云ふことか先月か本月の雜誌に載つて居つたやうに思ひますが、實に其通りで、ソップと云ふものは直接營養になるやうに考へたのは昔のことであつて、昔はさう考へたのであるが、今日では左樣に營養になるものではないと云ふことが分りました、併しソップは全て營養にならぬものかと云へば、さうではないソップも幾分かは營養になるので、昔思ふた程の養ひにはならぬが幾分の養ひにはなる、其譯は前申した肉の中にある筋はうまく食べられて消化することが出來れば營養になりますが、如何にも堅くして嚙み切りて齒で消化ことが出來ませぬから、火の力を借りて能く煎じて居りますと、筋の中にあつて營養になる部分が長い間に煎じ汁の中へ溶けて出て來まする、故に其ソップを飲むも白湯を飲むも同じと云ふことはありませぬ、ソップには幾分の營養になる分があるので、筋を煎じますると膠のやうなものが出て來る、鹽氣が出て來る、其筋の中から出て來るものが人間を養ふ力を有つて居るのでございます、さうしてソップと云ふものゝ土臺が出來ると、其汁の中へ滋養物を加へることが出來る、鷄卵が滋養があるとすれば、鷄卵を落玉子にしてソップの中に入れゝば、ソップが大變に養ひになる、米とか麥とか云ふものをソップで煮て雜炊のやうなものに炊いて食べると、ソップに大した營養の力を增すことが出來るのであります、日本料理の松魚節のダシと同じことで、肉を煎しれば味ひだけは必ず出て來るのでありますから、滋養分を病人に食べさせる種になりますから、ソップと云ふものは病人に對しては殆ど缺くべからざるものであります。

ソコでソップは必要なものであるが、ソップの拵へ方は吾々が西洋料理の時に食べるソップの拵へ方とは少し違ひます、極く重くるしい位ゐのソップを拵

へなければならない場合がある、是は病人が非常に衰へて毎日高い熱度を發して弱つて居ると云ふ時分には濃く煎じたものでなければ生命の持久が附かぬ場合がある、さう云ふ場合には濃煎ソップと云ふものを拵へなければならない、病が輕くしてソップの滋養分が格別望まないで唯食氣を促すと云ふやうな時分には成るべく味をよく拵へるが宜しい、重苦しくつてはいけないから輕く拵へる、斯樣に一口にソップと云ひますが、ソップの中には極く濃いのと薄いのと中位のと、三通りの拵へ方が必要になる譯であります。

一番濃い方のソップを拵へますのには、肉の脂氣の無い所を撰んで主に牛肉を用ゐます其肉中の厚味を具へて在るのは。

どんなに肉の硬くなつたのでも宜いから、養ひ分の多い所を採つてそれを賽の目に切つて、口の廣い壜に入れる私共は特別に金屬で壜を拵へて居ますが、有合の壜なれば口の廣いのが宜しい、これに賽の目の肉を詰めて、さうして壜の儘湯の中に入れる、煮る時に壜の底が釜に接して碎るとなりませぬから、壜を荒繩か何かで縛つて肉を詰めて、初まりから釜の中に湯を熱くして中の肉が直ぐに煮えるやうでは肉の中の滋養分が外に出て參りませぬから、餘り初めから沸騰させませぬで、釜の中に壜を入れて湯の中に吊して湯煎にするのです、之を輕く溫める位でなければならない、壜に觸れて居る肉は直く煮える、煮えて仕舞つては滋養分が出て參りませぬから、充分心まで溫まつた時分に湯を沸らかすので、三時間か五時間位ゐも釜の中に入れて沸騰させると最も滋養になるものが出て參ります、壜の中の汁が沸ぎるやうではいけませぬ、それだけが注意すべき點であります、さうすれば壜の中には湯は最初から一寸も

ありませぬのですから、肉のソップ殻を搾つて見ますと、極く濃い一寸稀いおしるこのやうなソップが出來る、之を小さい匙子で飮ませる、一日に猪口一二杯を飮ませれば身体の養ひになる位ゐのものてあります、是れが極く濃い種類に屬したソップてあります。

ソレからもう少し薄い方のソップは水を割つてある、それは脂氣のない肉を今の通り賽の目に切つて壜の中に詰めて、肉がヒタ〳〵になる程に水を注して煎じ出すのてす、それは水が這入つて居るだけ薄くなる、水て肉の中の汁を引出すのてありますから、水の這入つて居るだけ稀くなります、斯う云ふ工合に水を入れて煎じ出したものを英語て「チイ」と云ふ名が附いて居りますから、此ソップを「ビイフチイ」と云ふ名が附いて居る、茶てはありませぬが肉を湯て煎じたのてありますから「チイ」と云ふ名を附けたのてありませう、是れは肉の中に水を浸して置く時間が大變長い、煮ないうちに肉の中の滋養分を引出すのてありますから、一晩位ゐ浸して置くのです、例へは明日ソップを拵へやうと思へば、今夕肉を取つて水に浸して明日まで置くのです、それまでは釜に掛けないで置く、さうして翌日なり翌朝なり釜に掛けた時分に、湯煎に致して半時間ばかり煮るのです、煮てそれから降して冷しますと、肉は縮まりますから、生の中は肉は軟かで膨れて居つたのが煮た爲に固く縮んで沈んで來ます、さうすれば前には濃いソップをおしること言ひましたが今度は上側に番茶位ゐな汁が出て來ます、さうすれば通例のソップと同じく脂肪が上に玉になつて凝結ります、ソコて其脂肪だけは取るのです、然し肉の中から出る一種鰹節の煮出しのチリのやうなものが出ますが、是は滋養になるのですから棄てないが宜しい、上側の白いのは

脂であるから取棄てるが宜しい、さうして半時間ばかり煮た所で冷まして、あとで又一時間ばかり充分煮て置きますと貯へることが出來る、左もないと折角前夜より仕込むで朝拵へ上けたのが晝過ぎ迄は最早腐つて仕舞つたと云ふやうては勿体ない、一日分位は拵へて置かなければならないから、どうしても二度目に充分に煮て置くが宜しい、

それから今一つのソップ、是れは極く稀いソップでありますから、西洋料理の時に食べるソップと同じてありますが、詰り水の中に肉を入れて長い間煎じ出すのでありますから、普通のソップと同じことゝあります、普通のソップであると、ソップ肉と申して鳥であれは老鳥が宜しい、俗にツメと唱へるものてソップ肉を採事が宜しい、何故かと云へば老鳥は肉は食べられないが味は大變宜しいので、其味を煎じ出すために普通い料理の時には老鳥を使ひます、筋でも骨でも何でも構はず鍋に入れてグツ〳〵煮ると云ふのか普通のソップです、病人には味は二の次てあつて、滋養を主とするものでありますから何且肉の善いのを取るが宜しい、今迄二通りのソップを言ひましたが、何れも正味の良い肉のみを以てソップに拵へる方が宜しい、けれども今筋の中から滋養分が出ると申上げたから、筋も這入つた方が宜からうと云ふ御尋ねも起るかも知れませぬが、是れは若し筋の部分から取りまする膠分が必要であれば、ソップを取つて後に膠分を加へても宜しい、又膠分は牛尾ソップとか髓ソップとか云ふものゝ膠の部分だけを採る方法がありますから、緩りと聞いてお居でになると其話が後に出て來ます、唯今のは平日のソップの拵へ方と、病人に食べさせるソップは根本から違つて居るのでありまして、さもないと料理法を講釋するやうになりますから、私は此處にはどう云ふ

のが病人に宜しいかと云ふことを申述べるに止めて置くのであります。

病人に飲ませるソップを拵へるには、普通のソップよりは幾分か濃いソップでありますから、味は惡いが養分か多い先つ肉と水との割合は、肉が二百目あれば水は二百五十目と云ふ割合で、煎じて居る間に水は蒸發するから肉と水は同じ位ゐになる、味はどうも惡いが病人の營養を取るのでありますから、濃いソップを拵へなければならぬのであります、それから又次のソップは暫くの間水の中に浸して、それから火に掛ける、火に掛けて湯が沸ぎつて來ると上に泡が立ちまするから、其泡を鐵杓子で取つて、度々さう云ふ工合にしてやれば、澄んだ躰裁の好い稀いソップを拵へることが出來る、其後にソップ殼を布で漉して美麗に澄んだソップにして貯へて置きます、前に申した濃煎ソップの方では鰹節殼のやうなものがあるがそれは取つて置くが宜いと申したが、今度は泡のやうなものや殼のやうなものは揚げて奇麗にして、一日分位ゐ冷かの所に貯へて置く、是れがソップの拵へ方であります、それだけは各自に拵へ方を覺えて御自分の臺所で拵へて貰ひたいと思ふ、兎角賣物のソップは廢物などを集めたものであるから安心して飲まれない、又稀いソップなどては格別病人の効になりませぬから唯今申したやうに丁寧に拵へて病人に與へるが宜しい。

其外肉類を種々の製方にして食べさせる法がありますけれども、是れは皆製造家が致す仕事で、自分の臺所で出來ることてはありませぬ、先づ一二の名だけを擧げて置きませうか。

肉ペプトン、カルノ、ミエトーセー、トリール、ワレンチン氏肉汁の類てある又肉の代りに用ゐる滋養食品の最新なるものはアルカルノーゼ、ヂナ

モーゲン、オイラクトル、など丶云ふやうな種々な名を附て、新しいもの新いものと云つて新奇を競ていろ〳〵なものが出來まするが、大抵肉から製法したものであります、然し肉から製法するといつて自分の臺所で出來るものではない、製藥のことを巧者な人でなければ充分斯う云ふものは出來ませぬし、醫者から指圖があつて藥と同じに分量から飲ませ方を御聞きにならなければならない、故に肉に就いての御話をすれば今のソップを打止めに致して置きます、此次は今話しかけました所の膠の部分だけを、滋養分としてソップに拵へたり又はソップに加へたり、又煮凝りなどを拵へること、鷄卵の食べさせ方等を御話することに致します、丁度一時間になりましたから御免を蒙ります、

（以下次號）

高崎支會講演

個人衛生の總論に就て（於高崎支會）

土谷　全次（未定稿）

私の述べますのは個人衛生の總論に就てと云ふ題であります元來衛生に就ては著書講演等少からずと雖ども公衆衛生に重きを置きて個人衛生に論及せるもの少なし又女子教育の内に於て一般家事と稱するもの丶中に多の衛生論包含すれども特に個人衛生の名を冠せざるに由て注意を促がすと僅少なり又普通衛生論には本邦習俗に適する例證を列擧するとなし是等の事は最も遺憾とする處なり故に專ら本邦の風俗、習慣等社交的日常生活の間に在る衛生事項を集め個人衛生の名を下して之を述べ大に諸君の注意を促さんとす斯の如く人間日々の生活間に現はる丶處の衛生事項なれば直ちに經濟と連帶して須臾も分

離するを能はざるが故十分經濟の點を顧みて之が許す處の範圍内に於て衞生事項を實行せざるべからず之を講述するに當りても勿論力めて其論據を經濟に結合せしめんとす聊も家事科中に於て重きを置く處の舊慣式作法の如きも人間の生活に不便不利なるものは强て施行せしめんと欲すと雖ども之を實行するや甚だ難し固より今日の風俗習慣なるものは數百千年來土地の氣候風土及經濟に適し人間の生活にも多少利益ありて且つ幸福を增進するものなればこそ今日に至るまで持續せられたるなれ故に其果して衞生に害ありや否やを檢知せずして漫りに衞生に害ありと稱して之を改革せんとするは吾々の贊成し能はざる處なり。

我國大變革ありたる時代にして維新の前後に於ては風俗習慣の一變せるを見ると甚だ多し例之は飮食物に於ても頻りに西洋の習慣を崇拜して盛に肉食を稱へ之に依らざれは身体を營養すると能わずと稱するものさへありき然るに古來我國に於ては專ら穀物蔬菜を用 魚鳥の肉を食するは少なかりしも身体は極めて强壯なりき今日に至り斯の如く只外觀のみ歐羅巴の風習に模倣せんとするは大なる誤りなりと覺るに至れり然れども個人衞生の如く日常起る處の事項を講究するには吾國古來の習慣を考へて容易に之を破毀し或は保存すべき判斷を下すべきにあらず或作法の如きは特に然りとす之が取捨存廢を決するの準備として衞生上の原則を講究し自ら判斷を下すとを得べし又た學校教員抔は個人衞生を學習して之を生徒に傳ふるとの大切なるは勿論猶ほ我國の風俗習慣を推究して其理に適へるや否やを考へ世人の迷を破り蒙を啓くべきは其職責の一なるべし實に我國古來の發明中には今日歐羅巴の發明に劣らざるもの少からず而して知らず識らずの間に之を守れるの美風あるとを知らしむるは亦以て愛國心を增さしむるの一手段なるべし實に我が國は環海國なれば其氣候溫和にして大に衞生に適し且つ防寒の用意多きを要せず經濟上失費を省く、を得るが故に更に一歩を進め此海

洋の利用を怠らざれば我國と事情を同じくし且つ最も衛生の進歩せる彼の英國にも劣らざるべく實に至利至樂の國なり。

偖て吾人の健康を障害する處の仇敵は何ぞ即ち疾病は如何にして之を防ぎ得べきかを研究するを以て衛生の本旨とす所謂醫學上の術語に原因と稱す抑も衛生は疾病を防禦するのみにあらず個人衛生中に於て卑近の一例を擧ぐれば小兒の玩具中動もすれば其手指の損傷を招くものあり或は飼育せんとする小兒の傍に熱湯の入りたる鐵瓶を置く等の爲めに不慮の禍を蒙らしむるが如きは皆衛生上の危險にして注意如何によりては容易に避くることを得べきなり然れば所謂原因と稱するものは極めて多く實に吾人は吾人の健康を障害する處の危險物に圍繞せらるゝものなりと謂ふべし而して打撲、火傷、切創等の如き器械的に身體を毀損する負傷の原因は明かに眼前に顯はれ之を目撃するを得るが故に敢て怪むものなしと雖とも彼の鎌鼬と稱するものに至りては其原因を目に視る能はざるにより妄りに附會の說を爲すが如く凡百の疾病は皆其原因の見るべからざるよりして之を神佛の責罰となし百般の妄誕怪說を流布せしめ以て愚民を惑はすものあり加ふるに宗敎上の迷信を利用して巧に愚俗を欺き神佛の効驗を顯はして疾病を救治せんと稱する狡獪今日開明世猶ほ其跡を絕たざるは歎すへき事にして畢竟學問の普及せざるによる然れば個人衛生に於て疾病負傷の依て起る所以及び之を防ぐ方法を明にし以て荒誕不稽の說を一掃し未來の少年をして斯の如き妄說を信ぜざらしむるは諸君の一大義務と謂ふべし又國に疾病負傷者多きときは一般國民の元氣阻喪し國家の生產力を減じ損亡之より甚だしきはなし今疾病負傷の起るべき原因を明かにし之を未發に防ぐの方法を實際に應用して病者傷者の數を減するを得ば實業興進して國家の富強を致すに敢て異なることなく其効實に鮮少に非るなり。

原因は其數極めて多く其如何に身體上に作用するか

を知るに統計に據ると肝要なり而して此統計は二種あり一を疾病統計或は罹病統計と稱し一を死亡統計と稱す其衛生に必要なるは勿論罹病統計にして例令ば學校衛生に於て死亡統計は格別の必要なしと雖ども罹病統計に由て脊椎彎曲近眼の増進等を知り以て後來の參考に供するが如きは最も大切なることなりとす然るに我國に於ては一般の罹病統計は不完全にして獨り傳染病而已は罹病統計死亡統計共に明瞭なれども他の疾病負傷等に至りては其實際を知ると能わざるは遺憾なりとす死亡統計の罹病統計に及ばざる更めて云ふまでもなく茲に一人の死者あるときは果して疾病の爲に斃れたるや或は天然の壽を保ちて死したる者にして衛生の力及ばざる所なりしや判するを能はざればなり。

疾病原因を十八種と假定せり。

第一年齢、第二男女別、第三体質、第四遺傳、第五作業、第六貧富、第七精神感動、第八衣服、第九食物、第十住居、第十一氣候、時候、第十二光線、第十三土壌、第十四空氣、第十五寄生物、第十六傳染物毒、第十七化學的毒物、第十八理學的勢力即ち理學的勢力、

本日は之て止め次回より逐次申上ることに致します。

食餌衛生に就て（第一回）（於高崎支會）

莊司森之助

食餌衛生とは、膳部に上りまする、食物の衛生上に就て、御話致そふと、云ふのでありますが、單に食物と申せば、吾人、生れながらにして、習慣性に、日々三度三度食べつゝあるので、今更改めて、行々しく、爰に御話するほどの、價もありませぬ様なれど、喰ふて其養價を知らない様では、買價の貴き食物のみ善良否な滋養になるかの如く思はれ、買價の廉き物は少しも滋養にならぬ如くに、誤解せらるゝ御方も、世の中に多くありまして、誠に遺憾のことで御座りますれば、諸種の食する品物と、食ひ盡した分量とにより、吾人の身體に、何程の養價を與へまするかを、研究するのは、敢て無用の様にも思はれず、寧ろ今日の急務かと存じられまするから、縷る〱、御話申上るつもりで、ありますが、本日は、高崎支會の發會式にて、このように盛會の結

果、種々の順序がありまして、時間も經過りました故、支會長より三十分間に、話し呉れとの仰せも御座りますから、一寸序論丈け御話しよふかと思ひましたが、月に一回のこととなれば總論を、詳しく毎月〳〵申上げると、長口上に渉り却て御妨げともなり、又た時日を經過しますると、表題の目的を、達せざる樣になりては、双方の爲めにもならぬ樣に、考へますから、本日は、是非とも總論だけ、御話しして、置かねばならぬに由て、是より駈歩も一足跳にて、貴重なる時間と、尊嚴なる御耳を、拜借して申上げまするから、何卒三十分の間御清聽を願ひます。

さて、吾人の日に三度食物を攝りまするのは、何の爲めてありますか、只空腹を肥す爲めと申せば一理のある樣なれど、何故に、寐ても起ても働くも働かざるも、時の過るに從ひ、空腹を覺へ、是非とも食物を攝らねばならぬ樣になる故、之ぞ研究の種であらふかと存じます、之を究めんとするには、自ら順序のありますので、少しく問題外に渉りますれど、先づ之を總論として解釋し、然る後各論を申上げ樣と思ひます。

吾人の體は、何物の集合に由て、出來て居りますかと申せば、誠に複雑なる物質にて、組織せられおれば、一々說明致しますると、隨分長くなりまするから、極簡單なる槪略の系統的表にて申上ます。

人體の構成物
- 無機物
  - 水　全身の六十四分弱
  - 鹽類　クロール鹽、炭酸鹽、燐酸鹽、硫酸鹽、フリオール石灰、
  - 酸類　クロール水素酸
  - 金屬　マンガン、鐵、
  - 瓦斯類　酸素、水素、窒素、炭素、水化炭素、安門、硫化水素、
- 有機物
  - 蛋白質　全身ノ十六分强
  - 脂肪　全身ノ十四分强
  - 含水炭素物
  - 其他中間物

このよふな、種々のものより、出來て居りますので、申せば、人は一個の小天地とやら、唱へてありまする如く、この世の中に、存在する總ての物質より、組織せられてあります、けれども該諸物を集めたればとて、人間とは申されません、此物が、天然自然に適當に相集まり、諸種の形狀となり、所謂五體を

形成して、人體とは申すなれ、抑も人體は、原來一個の細胞にして、極微なるが故に、肉眼を以ては、到底之を視別する事が出來ません、顯微鏡の力を藉りて、漸く其の生活現象及び形狀を織別することが出來ます、始め該細胞が、母の胎内に宿り、靈妙不思議なる、構造に由り營發せられ、漸々發育し、自活の機能完備するに至りまして、始めて、母胎を辭し、外氣の刺戟を受け、呼吸を營み、自己の温度を保續し、諸機關の働をなす樣になります、されば、人間に温度は必須の要件でありまして、若し之れなく身體冷却すれば死と云ふことに移ります、俗に死亡することを冷たくなるとの諺は、自然の有樣を言ひ現した辭と思ひます、故に吾人の生活と云ふことは、必ず温かなければなりませぬ。

吾人體の中で、温の發生しまする本原は、何で御座りましよふか、御承知の通り、空氣中で火を點じますれば、温を生す、即ち火は温熱を發生しますことは、已に日常御覽の如くであれども、此火の燃ゆる原理は、化學上で申しますると、空氣中の酸素と、物質中にある炭素と、互に和合して燃へまするので、此際炭酸瓦斯などを發生致します、これと同じ樣に、吾人に温度必要なりとて、空氣中の如く、直接に體中に於て、火を發生されますならば、其れこそ一大事で、忽ち燒死と云ふ殘酷なる場合に立至り、世の中に人間が絶ゆる樣になりますが、否らずして、體中にて、適度なる温度を製造し、一生涯絶ゆることとなきものは、一種の現化學的作用にして、試みに兩手を摩すれば温を生じ、又原子と原子と化合すれば熱を起すが如く、吾人の體中に存在する、諸種の物質の、極微分子に運動を起し、原子と原子との親和力に由て、互に化合する際に發起する、現象に外ならざる樣に思ひます。

吾人の攝りまする、食物たる動植物は、炭素、酸素、窒素、水素の四元素より成りまして、此物が、口より胃に至り、十二指腸を經過するの間に於て、漸々消化せられて粥狀となり、小腸より吸收せられ、

淋巴管及血管に入りて、全身の組織中に運搬せられ、先づ分解して各個の成分となり、其炭素と水素とは、呼吸器及血液に媒せられて、來るところの、多量の酸素と化合して、炭酸及水を生す、この有樣は、外氣中にて火の燃ゆる作用に同じ、又水素の一部は窒素と抱合して安門を生ず、かくなる炭酸と水と安門を化生するときに、熱を起しますので、之を燃燒溫或は酸化溫と申します。

此發溫の量價を定めまするには、一「カラム」（我約五撮）の水を、攝氏零度より一度迄昇らしむるを、一「溫量」或は小「溫量」と云ひ、又た千倍なる、一「キロガラム」（我が約五合）の水を攝氏零度より一度迄昇らしむるもの、之を一「溫量」或は大「溫量」と申します、後に食物の養價を定めまするときに、大溫量にて計算致しまするから、御記憶なさる樣願ひます。

人體の組織を燃燒しまして、溫を發生せしむるには、他物を一位として比較しますると、〇、八三の溫量を得ます、今ま、吾人の體量十五貫目ありと假定し、常溫三十七度を有するものと見做しますれば、溫量の總計は約二千大「溫量」を發生致します。

吾人の體中に於て、二十四時間に、發生する溫量は、體量の輕重勞佚の程度及諸種の關係により、各異なりますれど、平均約二千四百大カロリーにして、一時間百大カロリー、一分間一大カロリー八でありまして、實に莫大の溫量を製造し、常に體溫をして、攝氏の三十六度五分乃至三十七度五分を持續せしむるのであります。

吾人の體を離れる溫量は、溫の傳導放散蒸發の三機により、二十四時間二千三百大カロリー、一時間九十六大カロリー、一分間約一大カロリー六を、失ひますにより、發生する溫量よりは少なくあります、されはとて、體內に貯蓄する譯でなく、冷き飲食物及呼氣に溫を與へ、又呼吸器中に於ける、水分蒸發を營むの、用に供せられます。

此よふに、吾人の體溫は發生と放散とを、平等ならしめて、生活體溫を持續するのでありますから、日々之

を製造すべき原料を攝り、不要の物は之を體外に出さねばなりませぬ、この作用を新陳代謝と申ます。新陳代謝とは、物質及力の交換を營なむ作用にして、生活の徵なりと申します、若し之なければ、生活機能全く止み、死物と變化するのでありますから、吾人は生活する間、體外より、ある物質を攝取し、自體內に於て、類化及融化を遂げ、再び體外に排泄する所の、攝取、類化、融化、排泄の四作用を、新陳代謝とこそ申すなれ、今類化及融化の作用は、後日に讓り、攝取、排泄、即ち體內と體外との交換を、系統表に示せば、左の如くに別れます。

- 新陳代謝
  - 瓦斯交換
    - 外呼吸
      - 外氣と肺臟
        - 廿四時間中吸入酸素量七百四十四瓦
        - 廿四時間中呼出炭酸量四百五十五瓦
        - 呼出氣の炭酸量は空氣常在量よりも百倍多し
      - 外氣と皮膚
        - 廿四時間の失量は體派の六十七分の一
        - 炭酸の失量は肺の二百二十分の一
        - 酸素の吸攝量は肺の百八十分の一
    - 內呼吸　毛細血管血液と體中の組織との瓦斯交換
  - 物質交換
    - 養物攝取
      - 蛋白質（卵の白質類を云ふ）
      - 脂肪（油類なり）
      - 含水炭素（野菜類を云ふ）
      - 水
    - 廢物排泄
      - 糞便　二十四時間約四十五匁乃至百三十匁
      - 尿水　二十四時間約七合乃至八合五勺
      - 汗　二十四時間約五合

このよふに、吾人の體に、瓦斯と云ひ、物質と云ひ、多量に交換せなければなりませぬ、であるから、此二質の交換は、生活を持續する上に於て、瞬時も休むことの出來ぬのである。

瓦斯交換は、呼吸器、即ち肺臟と皮膚とにて、天然自然に宇宙間に、充滿しある、空氣中の、酸素を吸攝し、體內の老廢したる炭酸瓦斯を、排泄するものなれば、生活現象の存在する限り、不知不識の間に、交換し得るもので、其量實に大きくあります、從て此空氣の、身體に及ぼす影響は、衞生上有要なることなれど、問題外でありますから之を略します。

物質交換は、吾人の營養物攝取と、廢物排泄との、二作用でありまして、身體の營養に必要なる食物を攝り、其物が體內に於て、類化及融化せられ體を養ひ、その廢物となりたる物は、體に有害でありますから、之を體外に排泄せられるのです。

俗に滋養物と云ひまする辭は、甚だ莫たる意味であります、けれど世の中の人は、食品中或一品、例之

は肉などを食すれば、直に營養を増多するものと心得られ、廣告の看板に、滋養の文字さへありますると、あれも滋養、これも滋養と信じ、高き價を投じて、求むる人少なからぬ様に聞き受けますが、誤りの甚しきことゝ申さなければなりませぬ、諸姉よ、吾人の食物とする、宇宙間に繁殖せし動物は勿論、水及鹽類に至る迄、人體構成分に必要なる物品は、みなこれ營養になるぞかし、只一物を以て、吾人の生命を、滿足に保續するものは、ないのでありますから、何物にても、人身を滋養するに、足る食品の、一部分なりと、解釋なされた方が、穩當の様に思はれます、そこで、食物は、毎日何程つゝ攝りましたならば、宜敷かと申せば、男女、老幼、身幹の長短、體量の輕重、作業の勞佚、其他諸種の、關係によりて異なりますれど、體中に於て、温となり、或は活力と變しまするに、要する消費量より、尚少しく、餘分に攝らねばならぬ様であります、日本にては、森博士及隈川并に諸氏の調べたるものあれど、大同小異でありますから、その中數を申せば

	蛋白質	脂肪	含水炭素	温量
易業男子	十匁	一	百五十匁	二四七八
中等業男子	十九匁	四匁	百三十七匁	二五八〇

と云ふ様な次第で、此量までには、是非とも攝らねばなりませぬと存じます。

概して、日本人は生れながら、蔬を食して居りまするから、西洋人の眞似をして、肉類や脂肪類を、澤山に攝りましても、原來體中機關の働きが、異て居りまするに由て、彼等の如く、之を充分に消化し體中に吸收することが出來ません、この消化吸收の遲速を調べましたる例に據りますると、西洋人は、蛋白質二と脂肪一と含水炭素三との比例なれど、日本人は蛋白質二と脂肪一と含水炭素三十六との比例にて、彼と我とは、大なる相違が御座ります、故に、肉の多量を食しましても、一定分量より外、吸收せられずして、無用の糞便となりて、排泄せらるゝことあります、馬齡彎なればとて、吸收せらるれば、同じく、營養になるのでありますから、此邊は日日

三回つゝ、食饌の配備上、最も心すべきことかと思ひまして、食饌衛生なる問題を擔ぎ出した譯であります、御約束の時間は、すでに過ぎ去りましたから、總論は之れで終りと致しまして、次回よりは、食饌實際論に基き、各品の養價を申上げることに致します。



寄書

疾病學校の必要を論す

醫學士　竹中成憲

世人動もすれば教育を先にし衛生を後にす、蓋し誤れるの甚しきものなる矣、今學校に入らむとせば學術試驗を受くるに先ち入學願書を出さゝるへからす此願書には醫師の作成に係るところの體格檢査證を添ゆるを要す志願者不健康なれば入學する事能はず此一事を以て既に衛生の教育に先つへきものたるや明なり。

父兄諸君よ諸君の親愛するところの子弟にして入學の際における躰格試驗に落第したりと假定せよ諸君は此時に當り如何なる感動を受くべき乎又既に入學したるの後學益々進むに當つて諸君の子弟は病を得て退學又は休學を命ぜられ而して其病は普通の病院に入るべき程の大病にあらずして家に在て只ブラブラ〱消光するものと假定せよ此塲合に於ける可憐なる少年を諸君は如何に取扱はるゝや。

彼等の中には健全となるものもあるへく又假令ひ死するとするも十ヶ年以上此浮世に生存するもの尠からざるべし、されば此十ヶ年餘を彼等は如何に消光すべき乎、手紙も書けず新聞紙も讀めず假令ひ他人の役には立たずとも自身の用を達し自身の快樂の爲めに新聞紙又は小說を讀み得る位の程度にまで教育を加へて遣すにあらされば可哀想にもあり又父兄の義務も之を盡したりと謂つ可からず。

諸君は如何にして學校に入るを得ざる若くは學校より追ひ出されたる子弟に對して教育を加ふる事を得る乎、諸君は決して之を爲し得ざるなり。

茲に於てか疾病學校なるもの丶必用ある矣、即ち本學校は躰育八分、教育二分位の比例を以て標準と爲し就蓐を要せざる疾病兒童を收容するものなり故に此學校に於て爲すべき事は凡そ左の如くなるべし。

一生徒の健康を恢復若くは增進するを以て目的とする事

一故に本校は一種の病院にして生徒の服薬は勿論營養攝生を司る事

一躰育に重きを置くかゆへに學科は一日凡二時間を超過せしめざる事

一疾病の種類及び輕重に從ゐ級を區別し以て互の傳染を嚴防する事

一此疾病の種類は決して多からず先づ左の二病に外ならざるべし

一　結核諸病（就中、肺病初期）

二　トラホーム（眼病）

何となれば明治三十一年文部省令第二十號規定學校傳染病中上記二病の外のものは大底就蓐を要するを以て教育の廢すべきは明なれはなり只「傳染性皮膚病」は就蓐を要せざるもの多からざるを以て今之れを論ずる事は見合して可なり癲病は別に一校を設くるの必要あり故に要は左の二校にて足る

一　結核學校（肺病學校）

二　トラホーム學校（眼病學校）

（一校にして分科するも勝手たるべし）

心臓病のものは昇校を禁するにあらざるを以て普通の學校にて修業して可なり然れとも他に一校を設くれは更に良しとす生徒少數なるべきを以て附屬學校となすを要すべし

（未完）

大家談叢

本欄は去月十三日本會醫師招待の節席上に於ける諸大家の談片に係る固より速記にあらず記者の耳に殘りしものなれば只其要領に過ぎず皆さま右に御承知あれ

●醫學博士緒方正規君談話

(前略)私は御婦人は是非御運動を遊ばさなければならぬと云ふ事を申述べん先刻御禮を申上げる序に歐洲に於けるよりも我日本には小供の死亡が餘程少ない夫れを育てるには婦人方で日本には牛乳もあろうが母乳が多い之れては躰力が減じ居る故滋養が乏しくてはいけぬ併し只滋養になるもの許り用ゐたとても躰力はつかぬ夫れ故に御婦人方の躰力を付けるには運動が必要です御婦人の躰力が付かなければイカぬと云ふ譯は御産を爲さるに下等若しくは中等以下の人より高貴の方のほうが御産が重いと云ふことは筋の力が弱い爲めに高貴の方になる程御産が長く重い躰力筋力が強い人丈御産もかるく小供も丈夫なり衣食住に就ても婦人方が注意されるのだから自から行ッて見せて山根君が酒をやめて酒の害を解くと云ふようでなければいかぬので御婦人方も御躰力御筋力を付ける爲に日本帝國の手本となつて御運動をなさつて戴きたい。

運動に就ては「スポート」もあらうが一番容易いのは歩行ことで車は成るべく丈御止めになる方がよろしいとて之より婦人の袴に說き及ぼし婦人の袴は男の袴と違わぬ樣ですが「マチ」がないから外見ては歩行よい樣ですが内々はソレ程でないように思ふよく歩行には「マチ」でもあッたら歩行が容易く出來るだろうと思ふ云々

●醫學博士木下正中君談話

私は自分でも運動がすきで多少運動の事に心懸けて居りますが病院の裏の運動場では看護婦に「ロンテニス」なとをやらせます日本婦人には少し活潑す

ぎる様ですから主に「クロッケ」と云ふもの（玉をうつ事）看護婦にやらせますが是などは御婦人が庭で御やりになる事が出來ます初めの内は疲れましやうが慣れたら……只御顔が黒くなるのは御氣の毒ですが青い顔より御黒い方を拜見した方が心持がよい宅の者にも運動を勸めて見まするに仕ません此原因は一は衣物をきかへなければ外出が出來ぬと云ふ様なことて斷行が出來ないコレ等に內に居りました着物で直く外に出ると云ふことにしなければならぬのでコヽに高橋の夫人も居られますが獨逸などの婦人は內に居ッた儘若しくは上衣を取替へる位で外出しますから極めて容易です日本などでは少し遠くへでも往くには空を見ねは行かれないソレは「おめし」か惡くなると云ふ譯て外出かおつくうになるコレ等は衞生會の主腦として改良されたらよろしいと思ふ「コロッケ」の如きは隨分やりだすと面白くてたまりません二時間三時間やつて日の暮るのも忘れることがあります實際看護婦は用の暇しいに拘はらず此運動を初めましてから黒い看護婦が出來ましたが實に健康て御座います云々

●宮本仲君談話

私のはッマらぬ事ですが丁度一昨日でした私の處へ來ました病人に付衣服の改良か非常に必要であると思ひました年は丁度四歳程の中等以下の女子ですが夫れが一昨日父親と共に參りまして申すには胸がだん／＼くぼんで骨が飛び出しましたと云つて治療を乞ひに參りました是は「ベルッ」さんなども附紐を結ぶ爲めだと云ふ其他の人々も私も申した事がありますが兎角前の年に付けた付け紐を今年になつて其儘にして置いた爲め付け紐か胸の處に上り胸を「シメル」爲めに骨の飛上るのは澤山あるが是れも此事に心付かなかッたと見へました尚其他の身躰を調へて見ました處が背の一番高い第七頸椎の骨が飛ひ出して骨が立つて居る其衣服を特別に調べた處が衣服に一ッ宛の紐を澤山結び付けて三四枚のエリが重ッて居つて襟をしめつけ又首を上げようとすれば付

け紐てヒツパリ終には猫背即ち西洋の所謂S字形になる四五歳位の子供は胸をゆるめねはならぬと後て宅の書生にも申ましたがドーしても子供殊に七八歳の小兒は「エリ」「ムナ」「股」等をシメルとは特別に注意しなければならぬ第一に「エリ」と胸の付け方も改良しなければならぬコレも緒方氏の言はれた通り御婦人方の注意によるへきと故に一言申述べました。

●醫學博士岡田和一郎君談話

今晩は衣食住の御話しか出ましたが今殘るのは食事のことで之を一言申上ましやう。

食物は如何なる物がよいかと云ふ事は從來の御演說て御承知の事てすから述へません只玆に皆樣に御話せんとするのは新聞を御覽の御方は御承知ても御座いましやうが此頃英吉利て朝飯廢止會を起したのです其趣意は人間は夜間休養するから夫れて充分てある朝起て仕事にかゝるに腹一パイ食事をして働くのは職業を取る上に利益かない又貴重な時間を浪費するから朝飯を廢止しやうと云ふ譯てす獨逸ては朝飯は重きを置きません朝は僅かの「コーヒー」と「パン」位て始めて二時頃になッて食事をする日本から行く人は皆苦しがつて玉子などを呑みますが私は斷じて夫れをやらなかつたが工合がイヽ日本に歸ッて來ましたよりは餘程多くの仕事が出來ました英吉利て此議の起つたのは大變よろしい事て其結果かよければ日本などても朝汁などを造る世話もなく總ての點に於て時間も省け經濟上にも利益かあれば皆樣と共に研究したいと云ふ考いてす云々。

●醫學士山根正次君談話

(前略)西洋へ參つて見ますると食物をたべる晩食の時などは髮や手を洗ひ御膳へ付く習慣があるが日本ては此習慣がない日本ても食事の前には手を洗ふと云ふ習慣にしたい手は奇麗な樣な汚ないもので子供などは外て石ころやいろ〳〵な物を持遊ひますから手は洗はして膳に付くようにしなければならぬ日本人は上草履てあるいた處を御客があると手をツイておじきをし居る其手て「まんぢう」をつまむで食ふ又

病家でおさんが御醫者に出す湯には時に煮え湯が出る醫者の手は汚ない樣で奇麗です私の家庭では下女に言ひ付けて置きますから食事の時には「ポッチヤン」方手を御洗ひなさいと云ふことにしてあります之れは自然危險をも免がれることが出來ますから食事の時に手を洗ふ樣にしたい。

此外に上野に參つたからいろ〳〵御話し致しましやう私は常に餘計食へと云ふ主義で日本婦人が「オッポロ」をして居ッてはいけぬと常に言ひ居りますが先刻水道は傳染病に大なる影響はない下水か出來てから云々の御談もありましたが私の「飲み物」と云ふのは御酒の事で酒の害は皆樣御存しの通り危險なもので玆に精神病の先生も居られるが酒の爲めに病を起し又犯罪の原因にもなることが多いのです警視廳て調べて見ましたのに大罪を犯した人は皆大酒呑みであると「ロバート、ミイーラアー」の例をひき尙警視廳に於ける犯罪者の統計によるに八千何百人中酒を嗜むものは五千六七百人でした其他心臟腦病等にも其害が多ひ恐らく西鄉侯爵の如きも大酒から腦癌の原因となられた事だろうと思ふ其他酒の爲めには風俗も亂す今年花見の時分ばかりて警察の厄介になつたものが四百八十人許りで御婦人にも段々あつた來年からは幕の内に入れやうと云ふ考へです又三月中品川上野本所等の停車塲に於ける醉ひ倒れの數を擧ければ品川は六百六十五人上野が八十五人本所が三十五人で品川が一番多かりし……尙皆樣の殿方には左樣の御心配もありますまいが酒は餘計わがらん樣になさる方がよい一寸と酒の害と手を洗ふことを申上げて置きます云々。

●再び宮本仲君談話

食事の時手を洗ふ御話しと御酒の話が出ましたから御菓子の事を一寸と申上げましやう御菓子を澤山たべると齒を惡くする菓子やの亭主は皆樣も御存の通り「ミツパ」が多い小供の口には鵝紅瘡即乳かすが出來るアレに黴菌が付いて中々取れない大人は大病人でなければ出來ないが夜乳を飲ませる小供は多

い其口中を調へて見ると酸性になるのか多いコレは菓子を澤山たべる爲に「ミツパ」が出來るので小兒に晝の間始終口を洗はすことは困難なれば夜寢る時丈でも炭酸曹達水でよく洗ッて寢かすようにしたら虫歯が少なくなり又拔けかわる齒の爲にもならうと思ふ皆樣御實行あッては如何御酒の代りに御菓子で……

（以下次號）



衞生叢談

●脚氣病

脚氣は日本の風土病とも云ふべき病ひでありまして夏期になるとそろ／＼發生致します年々之に苦しむものは實に夥しいもので御座います地方の會員方より御質問も御座いましたが此欄て一寸と申述べましやう脚氣の療法といつてはまだ一定の方法はないようでありますが初め高木兼寛氏は食物中含むところの炭素と窒素との不平均によるにはあらざるやとの考へにて之を研究されましたことがありますソレは海軍の水兵に實施したことで之と海軍乘組員の食料は現金で渡し自分から食品を買ひ求める仕組みで御座いましたが水兵などは假令は十五錢渡しましても七八錢にて生活すると云ふ有樣となり自然粗食をすると云ふことで玆に不平均を起すものなるべしと以後は現金を渡すことを止め一日の食肉は何の位野菜は何に程と云ふ樣に致し今迄の日本食を改めて急に「パン」を食はしむることゝ致しましたが、其效能は著はれまして脚氣病者なき樣になッたそうです

脚氣病の原因及療法等は前にも申した通りまだよく分りませんが何に致せ脚氣と米飯とは大なる關係のあることは確かと申してもよからうと思ひます記者も今年は脚氣の「ハシリ」に罹りましたが脚氣の「ハシリ」は有りがたくはありません夫れは却て置きまして米と麥との關係を一寸と述べましやう

脚氣に麥めしがよいと云ふ事は餘り異論のないよう

てございます先日も某大家にこの事を問ひましたが麥めしは決して消化のよいものではない又其滋養に至りましては米より劣ることは確かですソレがナゼ脚氣によいかと申すと麥は消化がよくないから通利をよく付ける即ち通利のつくと云ふのは極端に申すとお腹の中をス通りするのでソレですから自然お腹もすくわけなのです赤豆の脚氣によいと云ふのも矢張り同じ譯けで通利がよくなるからであります遠田流（病院の名）にすると脚氣に肉食は禁物であるが麥飯のように多少滋養の少ないものに尚滋養のなき添へ物を食べて居りましたら身躰はやせてしまいます尤も皆様も御存じの通り餘り肉食を致しますと兎角通利はわるくなりますが麥めしに添へるに肉食するがよいそうすれば滋養も取れます若し又麥めしの御嫌ひの方は「パン」を御食べになれば同じことでまことによいことだと申されました。

又麥はドゥ云ふ麥がよいでしやうかと問ひましたら夫れは挽割麥でも丸麥でもつぶし麥でもよいが丸麥のやうに「エマ」すと云ふ樣な面倒なことは迚も手數のかゝる割合に食べよくないつぶし麥は却て世話もなく食べよいコレはふかして壓搾をかけたものだから別に効能の代る筈もないとの事です

尚米と麥との關係に就きまして西洋の方を調べて見まするど米を食べません西洋人には絕へてありませんが西洋人でも時々「ライスカレー」を食べますものとか印度濠洲南洋諸島にある洋人のように米を多く食べますものは此病ひに罹ると申しますソレから見ましても脚氣と米とは大に關係のあるものに相違ありません陸軍で用ゐて居ります麥めしは米五分に麥五分所謂半々或は四分六の割合です兵士は餘りうまがりませんが軍隊に脚氣患者のなきは不思議と申す程です記者も麥飯は餘りすきではありませんが此頃頻りにやッて居りますが大分お腹の工合がよくなりまして今迄張り詰めたと云ふ程でもありませんが固くなつて居つた御腹が柔らかく緩んで參りました此分では忽ち全快でございましやうなんでも病の成る

は成るの日になるにあらず早くから手當を致すことが申す迄もなく緊心で御座います

因に記す家屋にしても校舍にしても新築間もなく木材等の新しき壁の新らしき處などは脚氣を招く誘因となりし例めしも御座います

地方會員の方々より脚氣に關する御質問も大分御座いましたがコレにて御承知を願い升

●御産の經過

御産の經過は平均で申しますと二百八十日月に直しますと凡十ヶ月でありますが人によりてはコレよりも尚早く生れることもあり又遲くなることもあります今動物の産の經過をしらべて見ますのに或動物學者の調査によりますと南京鼠は三十日猫は五十六日犬は六十日豕は百二十日牛は二百八十五日駱駝は四百四十四日象は六百二十五日即凡二年で産を致すそうですコレによりて見ますと大きい動物程産の經過長く少さい程短いシて見ると人間には身躰の大小によりて經過の差があるかと云ふに是れは餘り著るしい程の差はありません大抵は同じでありますが併し大きい人は姙娠の經過が長いのではないが少さい人に比べて見ますると少さい人の方がお産をすることが少し早やく産をする樣です併し其差と申しても僅かに數時間とか、乃至は一兩日位の差で場合によつては一週間位の差のあることもありますがコレは何ぞ身躰に障りの有つたので普通の時ではありません

●精神病と年齡

若年期と老年期とは總べての境遇の異なると同時に精神も又大に相違するが爲めに疾病にもいろ／＼違ひがあります先づ十一歲より三十歲迄を年若の者として申しますならば十二歲以上二十歲以下の起す精神病は心が大へんに荒くなります俗に癲狂、躁狂など丶申して亂暴をする精神病にて西洋語の所謂「ヒステリア」で是れは通例申す血の道癇氣等が本となつて續いて精神病を起すのであります併し此「ヒステリア」は一の神經病で精神には異りがない是れが

だん／＼募ッて參ると異性の發狂になります此躁狂は二十一歳以上の年齢に於てあるですが前からその萌しは有ります少しく物に駭いて全身の痙攣を起し或は皮膚の感覺に異狀を起し或は腹内に一種の感じを抱き或は逆上或は腦充血を起し易くなるとが有ります實際に照らして見まするに「ヒステリア」から來たる精神病は若き婦人に一番多く精神病者の數の急に增す年齢は破瓜期即御婦人の身躰が一變する時代で十二歳より二十歳に至る迄の時期でありまして二十一歳より四十五歳までは成年期でありまして此時代は婦人の生涯中尤も精神を勞する時代でありますから、精神病がだん／＼に增加して參ります又更年期即四十五歳より五十五歳位になりますと又身躰の變動が起り此時より姙娠の機能を失ッて婦人方の精神には一種名狀されない程の苦しみがあり之迄の生活に比べて見て何にか精神の中に物足らぬ感じがあッて非常に心痛になた常に心持が鬱き勝ちになり面白くなく悲しき樣な風になりて漸々精神病になるのもあり或は心痛を避ける爲めの此時から飲酒を始める日本には少ないですが西洋婦人の酒飲みは大概四十六歳以上のものに多いので此期をこえて老年期になると餘程數も減じて參りますサレバよく此時代を考へて自から精神を安靜ならしむ方法を取らねばなりません殊に遺傳性のある人は尚更のことであります

景色よき場所に折り／＼立ち出て、
日に二三度の運動はせよ

●高峰博士の「タカヂアスターゼ」

高峰博士の「アドレナリン」止血劑のことは前に掲載しましたから「タカヂアスターゼ」の事を紹介致しませう詳細の事は略しまして短簡に申しますれば此藥は胃病の藥です今氏の成醫會に於ける演說中を拔萃すれば御承知の通り我々食物中少くとも三分の二は澱粉質でありまして外國人の如き肉類を多く食ひます者でも「ポテトー」即芋とかパンとか矢張其食物中三分の二以上は澱粉質であります元來澱粉質を

溶解性にするには唾液の中にある「タイリン」と云ふもの丶作用でありまして「タイリン」は化學上「チアスターゼ」と同一の有機であるから此「チアスターゼ」を純粹にする方法を發明したのであります其方法は高麴の茶の如きものを薄く拵へて幾個かの器に管を通して漸次新らしい麴に入れるのです此の如き方法を用ゐますと頗る力の強い「チアスターゼ」即ち強い麴の茶が出來ます其極く濃くなりし時を見計ひ「アルコホール」を入れますと「チアスターゼ」は水中には解け易いが「アルコホール」溶液には解け惡い所から「チアスターゼ」か沈澱して來ます即ち砂糖分の樣なものは溶液の中に殘ります此殘りたる「チアスターゼ」をそつと乾して粉末に致しました是れが則ち「タカチアスターゼ」所謂強い「チアスターゼ」であります「チアスターゼ」は從來歐米に於ては「モルト」より拵へますが私の拵へましたのとは一つ違つた點があります「モルト」より沈澱させた「チアスターゼ」は永久保存することが出來ません又空氣の作用或は光線の作用に依て拵へましたものは二三ヶ月を經過すれば其の力は大に弱くなります夫故「モルト」より「チアスターゼ」を製造する方法はありましても實際醫學上に利用することは出來なかつたので御坐います御承知の通り「モルト、エキストラクト」と稱し即ち「モルト」の煮汁を其儘煎じ詰めて拵へたものなどはありますが「チアスターゼ」の成分は甚だ弱き故「チアスターゼ」を必要とする場合には多くは不向きであります私は幸に殆んど純粹なる強き「チアスターゼ」を拵へることを得ましたから之れを亞米利加藥品製造會社と相談して其手を經て有名なる各醫學士の所で試用して貰ひました所が中々能く効くと云ふことで殊に胃病は三分の二の澱粉質不消化より起る者多く又た澱粉質の消化を助けるには「タイリーン」の供給を要し或は「タイリーン」の供給あるも喰べ過ぎなどの爲め澱粉質が胃中に於て種々の妨を爲す場合には眞に宜いものであるなど米國は勿論英國其他に於ける醫家諸氏の經驗上證

明さるゝに至りました一體今日は諸君に副腎成分の御話をする積りてすが先づ私の履歴を述べると同時に「タカヂアスターゼ」のことに就て御注意を得たいと思ひましたから先づ「ポテート、スターチ」即ち芋の澱粉で糊を拵へて來ました此「コップ」に硬い澱粉質の糊が入れてあります此硬さは倒にしても落ない位てあります此糊中に固形體の「タカヂアスターゼ」を投じます而して此「コップ」を假りに胃囊と見做せば宜しいのてあります即ち「タカヂアスターゼ」が段々働きを起して二三分間攪拌し居る中に此の如く以前硬き糊が水の様に軟らかになりまして此糊は濾紙て濾すことも出來ない不溶解物てあります然るに此の如く溶解致しますから滋養物を胃中に溶解せしめて血中に吸收させるには「タカヂアスターゼ」の僅か二、三「グレーン」を食事中或は食後直に用ゆれば大に其消化を速かにするのてあります又此「タカヂアスターゼ」は今御話た通り麹の成分てありまして麹は我々四千五百萬同胞が何百年來殆ど朝晩食用して居る處の味噌或は醬油等にも含有し少々位多量に食するも害なきものてすから麹の成分てある處の「タカヂアスターゼ」を餘分に飲み過ぎても害の無きとは明白と思ひます右の次第てありまして只今迄申し述たるとは化學者として私の區域て御坐り升此以上は何卒諸君に願つて其効用は或は單に胃中の不消化のみならず斯様〳〵な病症には適當するとかの御研究を得いのてあります云々(以下略)

因記此「タカヂアスターゼ」は東京横濱に發賣店あり多分各所に販賣せるなるべし

●小兒の睡眠時間

小兒の凡二歳に達する迄は毎日午前少時の間睡眠せせしむることが必用てあります但しイツもよく申すことて而も世間ては實行力に乏しいのは小兒を寢かすに其母若しくは乳母などの一ッに寢ねさることとなり必らず小供には一臥床を與へ之に輕く温かなる毛布を蒙らせ枕は餘り高くすることなく寧ろ低き方が

よろしい夜の睡眠時間は六時又は七時頃とし十時又は十一時頃一回乳を與へ翌朝六時頃に至り目覺むるに至りて再び乳を與ふることゝ總べて規則正しく一人寢等も小さき時より慣らせますときは追々成長するも世話も少く又衛生上にも大に利益あるものなれば只愛にのみ溺れて保育するは眞の保育ではありません小兒は統計によるに何れの國でも急性病にて十年以下の死亡が多くあります其多くある病ひは實布垤里亞、脳膜炎、猩紅熱、痲疹、百日咳、等にて小學生徒によくある病ひは傳染性眼疾、頭部寄生虫、皮膚病、耳腺炎、實布垤里亞、痲疹、熱性病、等なり是等は家庭に於て勿論學校に於ても充分注意せなければならぬことであります

●石鹸と糠

石鹸は皆樣御承知の通りいろ〳〵ありまして直段の高いのが決して善良なものとは云われません又香ひのよし惡にも關係しません元と石鹸は脂肪とアクの類で化學的に交ぜ合せた物ですが注意しませんとヒドク顏がアレ手がアレるのがあり升されば石鹸は撰むのが必要でありますがそーかと申して直段でも香ひでも又眼で見たばかりでも分りません又一々試驗所で試驗して貰う譯には參りませんから先づいろいろ石鹸を求めて見まして若し顏がアレず又よく不潔物を洗ひ落すことが出來ましたならば其の石鹸を常に用ゐると云ふ樣にするよろしい日本人の婦人方は糠を多く御遣ひになりますが是れは皮膚を滑らかにしてまことに心持ちがよい併し脂肪を落すことは出來ませんから脂肪を除くには石鹸の方がよろしくあります身躰に脂肪か出ますと其上に塵がたかりますからよき石鹸で之を洗ひ去り後に糠を以て皮膚を滑澤にならしめるのがよくあります只糠ばかりでよく脂肪を除き去ることが出來ると思つて居りますのは間違ですから茲に一寸と申して置きます

●夏の養生法

貝原篤信の養生訓に曰く夏は發生の氣いよ〳〵盛にして肌膚大にひらき汗もれるゆゑ外邪入りやすし暑

しとて涼風に久しくあたるべからず夏は陰伏とて陰氣かくれて人の腹中も冷なるゆゑ食物消化おそし夏腹中の陽氣なるは堀井戸の水夏はひやゝかにて冬はあたゝかなり腹のなかもさのごとし又冷水を度々のむべからず腹の中冷るゆゑ温きものを食して脾胃をあたゝむべし夏はゝだへも筋骨もゆるむ時なれば房事をつゝしむべし房事の命を削ること酒に十倍せり廿歳より三十二三までは人の春夏のはじめなり非水も涸るとき腎水の泉汲ばもとのごとく湧出るゆへ病後はしらず多房なりともさのみ命は耗るまじけれど四十の坂を登り五十の峠をこへては心すべきことなり暑中の一度は冬の三度にあたる霍亂、中暑、食傷、痢病、瘧みな夏にあり暑中は寒中よりも元氣へりやすし寢冷へといふも夏にあり腹の中冷やかなるに暑にまぎれて外よりも腹をひやすゆゑ臟腑ちゞみて腹いたむなり小兒もねびへありはらのいたむとてむしと思ひ苦き藥のますべからず腹をあたゝめさへすれば臟腑元の如くのびて腹のいたみやむべしとなり、

看護法

普通看護法（二十二）

Dr. T. S.

○消毒の事

前號にも申し述べました通り、傷をして血が出て、其の爲に怪俄人が血を失ふと云ふ事は、恐るべき事ては御坐いますが、之にも勝つて尙ほ恐るべき事が御坐います、それは外では御坐いません、傷から毒が躰中へ這入り込むことで御坐います、血は小さな傷では出るのも少なく、よし出ましたからとて直ぐ止りますが、毒の方は之と違つて傷の大小に限らず、其處から這入りさへすれば、必ず危險を惹起すので御坐いますから、其恐しさは中々出血どころでは御

坐いません、
扨て私が茲で申上げます毒と云ふのは、どう云ふものであるかと云ふのに、之は皆さんが既に御承知の黴菌の事で御坐います、黴菌は我々の身躰の周圍には、到る處に潜伏して居りまして、部屋や往來の空氣の中にも、衣類にも壁にも疊にも、到る處に潜んで居ります、只た之が小さい爲に、我々の眼に着かない丈けで御坐います、我々の皮膚や毛髮や、爪の中抔には埃が澤山付て居りますが、之を顯微鏡で檢査しますと、種々の黴菌が無數に居ります、勿論黴菌には色々の種類が御坐いまして、中には左程恐るゝに足りない者も御坐いますが、又黴菌に由りますると實に恐ろしいのが御坐いまして、例之ば彼の破傷風の黴菌だの、丹毒の黴菌だのと云ふ樣な類のものになりますと、極く些細な傷からでも容易く身躰の中に這入り込みまして、彼の恐るべき丹毒だの、破傷風だのと云ふ樣な病氣を惹き起して、多數の人の生命を奪ひます、又彼の膿むと云ふのはつまり黴菌が傷に附着した爲に膿むのであつて、膿汁の一滴を採つて之を顯微鏡で見ると、それは〳〵非常に澤山の化膿黴菌と云ふ黴菌が居ります、一滴の膿汁の中に居る黴菌は、寡くとも百万を下りませぬ、
黴菌は實に恐ろしいものではありますが、併し傷がなければ身躰の中に這入る事は出來ません、随つて健康な皮膚に黴菌が附着したからとて、恐れるには當りませんが、若し傷でもして其處に一定の黴菌が附着しようものならば、忽ちにして非常な數に蕃殖します、されば傷をして最も恐るべき事は、此の黴菌の侵入する事でありますから、傷をしたらば其の傷に、黴菌の這入らぬ樣にするより外は御坐いませんが、之れには總て黴菌の潜伏して居そうなものを、傷に近寄せぬが一番で御坐います、されば、汚ない手だの、布片抔で傷に觸れるのは、非常な禁物で御坐います、又膿汁に觸れた手や布片や、器械抔で傷に觸れるのは、倘は一層危險で御坐います、又傷に由つては傷を造つた道具、即ち刄物とか木片とかに、

既に毒が附着して居りますと、矢張りそれから毒が即ち黴菌が、傷の中に這入ります、こう云ふ場合には速に適當の方法を施して、此の黴菌を撲滅して仕舞はなければならないので御坐います、こう云ふ風に黴菌が傷に附着しない様にしたり、又附いて居る黴菌を撲滅してしまふのが、即ち外科的の消毒で御坐いまして、此の道理を知得なさらない方々は、決して外科の看護をなさる事はなりません。

（以下次號）

中外彙報

●東北地方の痲疹

皇太子殿下には東北地方痲疹患者發生の爲め御豫定の巡路を變更せられ水戶に三日間御滯在の上去八日御歸京あらせられたり扨て東北に於ける痲疹流行の狀態如何と云ふに內務省の調査に依れば現在宮城縣の痲疹患者は二十三福島縣は八十五、巖手縣は百四十三、青森二、山形三十四、秋田十七人にして初發以來の總患者數を累計すれば巖手縣は三百六十六秋田縣は百二十九人にて割合に多數なりといふ

●東京市內痲疹流行　昨今氣候不順の爲め市內に痲疹大に流行し甚しきは一家二三名の該病に罹り居るの現況にて益々猖獗を極めん勢ありといふ是により其筋に於ても注意を怠らざるよしなるが痲疹は七歲未滿の小兒の患ふるもの多く十歲以上になれば苦痛を受くること多し病氣中の日限は十二日と云へど恢復迄は三十日も百日もかゝることあり病後の食物は非常の注意を要せざるべからず其兆候は眼中うるみて淚出て欝たうしく見ゆ夜に至れば發熱甚だしく五日目に至り面部に發疹するなり此際湯に入れ或は風に吹かせなどするときは大に病を重らすに至る病後食物尤も大切にして往々腸胃病若くは肺炎或は胸膜炎等を起すことあり此の際は充分注意あるべきなり

●市消毒所の消毒受託　深川東大工町の東京市消毒

所にては傳染病毒に汚染せる物品の消毒を行ふの外消毒物品の和洋洗濯をも爲し一般の依頼に應ずるを以て時節柄傳染病毒に汚染せるものと否とに關はらず同所に依頼せば低廉に消毒洗濯することを得べし消毒料并に洗濯料は各物品に依り標準を定めあるが其重なるものを揭ぐれば如左

	消毒料	消毒及洗濯料		消毒料	消毒及洗濯料
夜具	四錢	十八錢	五布風呂敷	一錢	三錢
座蒲團	一錢	四錢	洋服	四錢	十錢
全部毛布	三錢	五錢五厘	外套	二錢	八錢
綿入羽織	一錢五厘	八錢	二巾トンビ	四錢	十二錢
女帶	一錢	一錢五厘	帽子	五厘	
肩掛	一錢五厘	二錢八厘	蚊帳	三錢	六錢

●施療病院設立に關する調査　東京市に施療病院を設立の必要なることは既に當局者に於ても之を認め其の設備等を調査し本年度總豫算に於て四萬圓の建設費を要求せるも市會に於ては其の位置の撰定なかりし爲め更に提案すべしとの趣旨にて否決となり施療病院を市內に一ヶ所設立するか或は二三個所に設立するかは當局者の意見も一定せざるが既に金子男爵より當局者をして至急施療病院設立に關する調査を遂ぐる事を要めたる由

●鼠族驅除法と其試驗　鼠族驅除はペスト豫防唯一の方法として各國の當局者は近來其手段を研究し手を換へ品を替へて試みつゝあるも未だ好手段を發見せず頃日英國にては專らギップスを食物に混じて鼠取りに用ひ居る由なるがギップスは其食量僅少なるときは毫も其効を奏せず兎に角鼠取りには亞砒酸に優るものなきも亞砒酸は極めて危險なる毒藥なれば其用法甚だ面倒にして何れの家にも用ゆると云ふ譯けには行かず去りとて之れを措いて他に適當なるものを發見せず併し船中の鼠族驅除には固形炭酸瓦斯を用ひるを最も好方法として目下各國共に之を採用し頗る好成績の由なれば我國にても其方法を施行せんとて近々衛生試驗所に其試驗に着手する筈なりと云ふ

●全國赤痢患者現況　內務省衛生局最近の調査に據れば本年初發以來全國を通じ赤痢患者概數は五百餘

人にして内死亡者八十六人なり又患者發生地方は東京、神奈川、愛知、山梨、靜岡、岐阜、熊本、秋田、岩手、和歌山、高知、宮崎、岡山等の一府十一縣下にて昨今氣候の不順に際し稍や流行の傾向ありと云ふ

●虎列拉上海に來る　香港は既に虎列拉病流行地と指定されしが最近小川總領事よりの電報によれば上海碇泊佛國船及び外人間に十名の虎列拉患者あり尙ほ支那人間にも同患者の疑ある者ありとの事なり

●臺灣の醫學校　臺灣總督府の醫學校は臺北に在り五年の學期を以て醫術を敎授し居る事なるが近來地方紳士の子弟競ふて入學するの傾きあり目下生徒總數百三十四人あり又此度初めて第一期の卒業生三名を出したりとぞ

●百歲と九十三歲の結婚　去三月歐洲ボヘミアのオーベルポリッツに於て珍しき結婚ありたり、新郎のフランツ、ロスネルは百歲にして臨終の際褥に在り、九十三歲の新婦アンナ、レンテルと結婚したるなり、此男女は七十五年間互ひに戀慕したる仲なりしが故障ありて今日まで結婚する能はざりしものにて結婚後四十八時間を經て新郎は死去したる由

●學生の遠近視眼　學校衞生上最も世人の注意すべき遠近視眼者の文部省各直轄學校に於ける最近調査の百分比例を聞くに兩眼正視者の多きは男に在りては附屬職工徒弟學校生徒の九十六人六分、最も少きは京都帝國大學の五十一人四分、女に在りては高、女、附屬女學校八十七人五分、最も少きは東京音樂學校の七十一人五分にして近來學生生徒の年の長ずると且學科課程の階級の進むに隨ひ直轄學校のみならず全國各地方學生とも悉く兩眼正視者の數を減少し追々遠近視眼者を增加するの傾きを來し到る處眼鏡屋のみ繁昌の現況なるが故文部省に於ても何んとか之れが豫防法を講ぜんとて學校衞生會に於ては三島主事專ら取調中なりと云ふ

●癌腫の新療法　獨逸のレッフレルと稱する醫師は癌腫の黴菌とマラリアの黴菌と互に兩立する能はざ

るの事實を發見し難治を以て目さるゝ癌腫を醫するに冶術其方あるマラリア病を以てするの方案を工夫し出でたりと氏が此工夫を思ひ付きたるはマラリア熱の發生地方に更に癌腫患者を見ざるの實にありて現に支那には癌腫に罹るもの皆無なりとの事なりと蓋し醫學社會の大問題なるべし

●衛生事項敎習所創設　近來社會の進步に伴ひ飲食物其他の物品に贋造又は僞造等を爲す者多く之れが眞否を判別し且つ其取締上統一を圖るには巡查をして衛生上の檢查救急法並に衛生に關する諸般の法令を講習せしむるの必要あるが爲め今回警視廳に於ては衛生事項講習巡查敎習所を設け管内各警察署より甲乙の兩部より二名宛巡查を撰抜し其敎習を爲すことに決し去る九日より實施せりといふ

●佛國と負傷者救護方法　佛國政府は今回自國市内の出來事に於て負傷を生じたる場合當座の手當を爲す事に就て新奇なる方法を採らんとて目下巴里に於て試驗中なるか其設計は郵便柱に似て小さき藥箱を常に保有し居り其擔架は疊む事を得一朝事ある時は最寄りの衛生署と其意を通ずるの便あり該意匠は頗ぶる實驗的のものなりと

●夫婦提携の風を養ふべし　「流行」第二十八號の論說に曰く、春風駘蕩の候は至れり、遊ぶべき春は來れり、樂しむべき春は來れり、此好季節を機として我國人は大に夫婦提携して外出するの風を養ふべし

近來婦人問題頻りに起りて婦人の地位を高むるの必要を說くもの多し、されど皆理論の偏して實行の策に乏しく適々一二の方法を講ずるものあるも甚だ實際に迂なり、故に予輩はこゝに夫婦提携の風を養ふべきことを提議す

とて盛んに夫婦提携の必要を說き、男子をして單獨に外出せしむるは醜業婦に親み、賭博に耽るの罪惡を敢へてせしむと言へり

●浴場取締法　內務衛生局は近來鑛泉、海水浴場及び旅舍等にて肺病、梅毒、癩病患者を他の浴客と混浴又は混宿せしむる虞あるを以て漫性傳染病豫防の一策として浴場取締法を制定せんと欲し目下地方に

令して浴場の設備、旅舍の數及び入浴者の種類等を取調べをれりといふ

●娼妓の檢診　警視廳に於ては遊廓所在地に出張所を設け毎週娼妓の健康診斷を行ひつゝあるが前週に於ける檢診の結果左の如き傳染性患者を發見したりと

▲新吉原(受診者)二〇六二(傳染性疾患者)九一(入院中の者)四六▲洲崎(受診)二五六(傳疾)六一(入院中)五二▲品川(受診)四六三(傳疾)二七(入院中の者)一三▲新宿(受診)三八〇(傳疾)一四(入院中者)一六▲板橋(受診)一六一(傳疾)五(入院中者)七▲千住(受診)二〇九(傳疾)一四(入院中者)九▲八王子(受診)八四(傳疾)三▲府中(受診)三七(傳疾)〇▲調布(受診)三六(傳疾)〇▲合計受診者四九八八人傳染性患疾者二一五人現に入院中の者一二三人なれば之を一ヶ月に推して算する時は一ヶ月の疾患發生者は八百六十人に近し一ヶ月の娼妓登錄者凡そ百五十六人平均とすれば今後六ヶ月中にして東京府下總ての娼妓は悉く惡疾患に罹るの割合となるなり

●寄宿舍の取締　年々遊學者の增加するに隨ひ寄宿舍又は下宿の數漸く增加し來るが目下の下宿屋は言ふに及ばず寄宿舍の如きも構造不完全なるもの多く二三の寄宿舍には傳染病患者を發生したる折柄なれば當局者に於ては此際充分制裁を加ふる筈にて先づ第一着に隔離室か或は豫備室を設けしめ患者の發したる時は直ちに之に移し以て病毒の傳播を防がしむるとになさしむべしと云ふ

●府下の傳染病　本年一月より五月中に至る府下市郡內各種の傳染病患者は赤痢市五十八人(內死亡九人)郡十二人(內同一人)腸窒扶斯市三百十八人(內死亡七十八人)郡六十八人(內同十一人)痘瘡市四人、郡一人猩紅熱市二十六人(內死亡一人)郡二人、實布垤里亞市七百二十八人(內死亡百三十七人)郡百十七人(內同四十六人)合計患者千三百二十六人死亡二百八十三人なりしと



内外實用料理

●日本料理法　　横井多滿子

●献立

●白味噌汁

根芋立切

ゑんとう豆

(鰹だし)

●あなごのうま煮（味りん　さとふ　せうゆ）
●蕗の付合（花かつほ　だし　さとふ　せうゆ）
●鯵の酢づくり（鹽、す、）
●鱚打きうり（鹽、酢、）
●かつら生か（みりん　酢　せうゆ）
三杯酢
●鮎鹽やき（鹽）
おしそら豆（しほ　さとふ）
生か

●白味噌を摺り常の汁よりもこく水にてとかし鰹だしを入て煮立、根芋を長さ一寸位切りゑんどう豆入て煮るなり、白き汁の中より青まめ出でゝうつくし
又根芋のかわりに豆腐を入れるもよし

●あなご、をさいて骨をとり水にてよく洗ひ皮の方よりざつと白燒にして一寸位に切り味淋と砂糖にて下煮して醤油と花かつほを入れ汁の煮つまる程に煮るなり

●蕗は長さ分は二ッ三ッ切にし湯でゝ水に浸皮をむき鰹だしを別に拵らへ置きそのだしを少し入（略には水を用ゆ）味りん砂糖醤油にて煮るなり而してあなごと盛り合にして出す

●鯵の酢づくりは鯵のあたまをおとし三枚におろし鹽をふりかけ小骨をぬき鹽のきく樣に手にておしつけ暫時して水にて洗ひ鉢に酢を斗り入れて此中に浸し置き十分斗り過てゆひにて皮をむけばよくむけるなり（故にこけも腹も取るに及はす）皮を去りたる身を皮附の方より二分くらゐの厚さの作り身にして皿に盛るなり

●小さき、きうりの元の處の皮をむき薄く切り鹽をふりかけ暫時置き鹽を水にて洗ひふうわりとしぼり鉢にうつし更に酢をかけて直ちにしぼり鯵の片わらへ盛る

●かつら生姜のむき方は先つ上皮をむき立に薄く長くつゝく樣にむきくる／＼巻いて暫時鹽水に浸し置けはしなやかになるなり之を細くせんに切り又更に

水に浸せば糸の如くなる之を等とゆびにてしぼり鱠の片わらへ三品とも盛合せ三杯酢をかける此三杯酢の拵らへ方は上等なれば味りん一合を五勺に煮つめ（一合のみりんぬれは六七人前になるなり）其内へ酢と醤油を合せてよくかき交ぜ客に出す前にかけて出すべし

○鮎の塩やきは鮎のこけを去りゑらと腸を去り金ぐしか竹くし二三本にて腹部をこさぎよく水にて洗ひ塩をふりかけ暫時おき焼時に前にふりかけたる塩をざつと洗ふべし（此塩をあらはされは生くさくて味ひよろしからず）而して金くしにさし（くしのさし方は小なるも大なるも横にさす時は頭と尾の方へさし立ならば頭の方より尾の方迄二本さすべし）強き火の遠火にて焼くべし此時ふり塩をするもよし焼けたる時直に串を廻して抜くべし

○おしそら豆之は新そら豆の皮をむきちつと塩を、ふりかけ暫時して湯でゝさるに上げ団扇を以て煽きし冷し鍋に入れ水少くに塩と白砂糖にて煮つめ潰きうち裏ごしにてこし団子よりも少し大きく丸め布巾に包てしほりそつと取出す之を茶巾しほりといふ之は二ツ三ツ位ひ鮎の盛合にすべし

▲生姜は目生姜なれば外皮を剝き熱湯をかけ酢に漬て添ふべし又はかつら生か（前の仕方と同し）にして添ふもよし

●次號には西洋料理を掲ぐべし

食べ物にうつり病のたね蒔きをなすは蠅故はいよけなせよ

質疑欄

質問注意　質問中診察せざれば應答し難きものは答解の限りにあらず候答解に遅速あるは答解者取調の都合ある為めと御承知を乞ふ●質問は端書にても封書にてもよろしけれど單に質問のみをわかりよく認むる事●質問に姓名を出すことを好まさる方は匿名にても差支なし

質問者　小坂田　鎮子

問　子宮粘膜炎とは如何なる症状に候や其適當

なる治療法及豫後等御教示下され度候

答解者　産科婦人科専門　水原漸氏

答　子宮粘膜炎には急性慢性の二種あれとも甲は稀にして通常多くあるは慢性症なり其症狀は多量の白色粘液若くは膿樣の帶下に時々血液を混し常に腰下腹に疼痛を覺へ月經不順となり其際强く痛を伴ひ出血過量となり如上の狀態は永續する爲め一般健康狀態を障害し患婦は高度の貧血に陷り刺戟され易く知覺過敏となり屢々不姙症を來すものなり

療法は搔爬術を以て罹患粘膜を除去するを最も安全にして且つ最も迅速なるものとす然るときは健全の粘膜を新生して忽ち一變するものなり如斯事例は曾て不姙症なりし人も姙娠し又常習流産の人も姙娠中故障なく良經過を取り安産するを以て證明し得べし又搔爬術を施さずして單に腐蝕法をのみ行ふ場合は其成績不確實なるのみならず亦治療に長時日を要するの弊ありとす併し輕症のものなれば腐蝕法のみにても効あることあり

豫後は未だ合併症を發せざる前に於て治療すれば尤も佳なりとす

問　質問者　東京　ワ、シ、子

私は二三歳の頃から鮫肌にて始めは肘の處が硬くザラ／＼となり居りし由なれど此頃にては全身に擴がり洗湯抔に參り候節は誠に困難致し候間何卒其療法御教示被下度候

解答者　本會審事員

答　質問者は魚鱗癬、即ち俗に所謂ゆる鮫肌に罹り居らるゝ事と存じ候、御難儀の程察入り候、此病は多くは遺傳性のものにて一二歳の頃より起り、至つて慢性の症にて、患者には通常太した苦痛を與へぬものなれども、時としては非常に痒みを覺へ、其の爲に搔きこわして頗る難儀をする人も有之候、又外見的餘り心地よからぬものなれば、洗湯に往く婦人にては、御困りなさるゝも御尤と存じ候、兎に角至急治療を加へる事必要に御座候へ共、去りとて全治請合とは申し難く候へ共、「カボサー」氏の膏藥、「ウ

イルキンソン」氏の齊藥抔の類を用ゐ、或は又「アルセン」の内服抔に由りて、症狀を輕減する事は請合に候、兎に角病症の强弱に依り、藥も一樣ならざれば、適當の專門醫に就て治療を受けらるゝ事必要と存じ候、（目下東京にて專門の皮膚病醫は大學の土肥博士、（目下洋行中）醫學博士岡村輝彥氏を始として、他にも澤山の大家有之候）、

質問者　長野　一會員

問　腦貧血と腦溢血とは如何なる差異之あり候哉

解答者　本會審事員

答　腦貧血と腦溢血とは、全く別物に有之候、腦貧血と云ふのは、腦の方へ廻つて行く血が減少する爲に起る病にて、腦溢血、又腦出血と云ふのは、腦の中に廻つて居る血の管が破れて、其處から血液が腦の中に溢れ出る病にて、俗に云ふ卒中と云ふのは即ち此の病の事にて候、腦貧血の方はよく有る病にて、左程驚くべき事にもあらざれども、腦出血の方は眞面目の病にて、五十以上の而も頸が太くて短く、丈夫そうな人に多く、出血の度强ければ其儘に死する事尠なからず候、又幸ひに輕度の出血にして、醫者の療治に由り回復するも、多くは一方の手が利ぬとか、或は足が利かぬとかと云ふ樣な、身體の故障を殘すのが通例に候、又一旦回復するも屢々再發の憂ひあれば、決して油斷はならぬ次第に候、

肥前　特別會員　立野階子

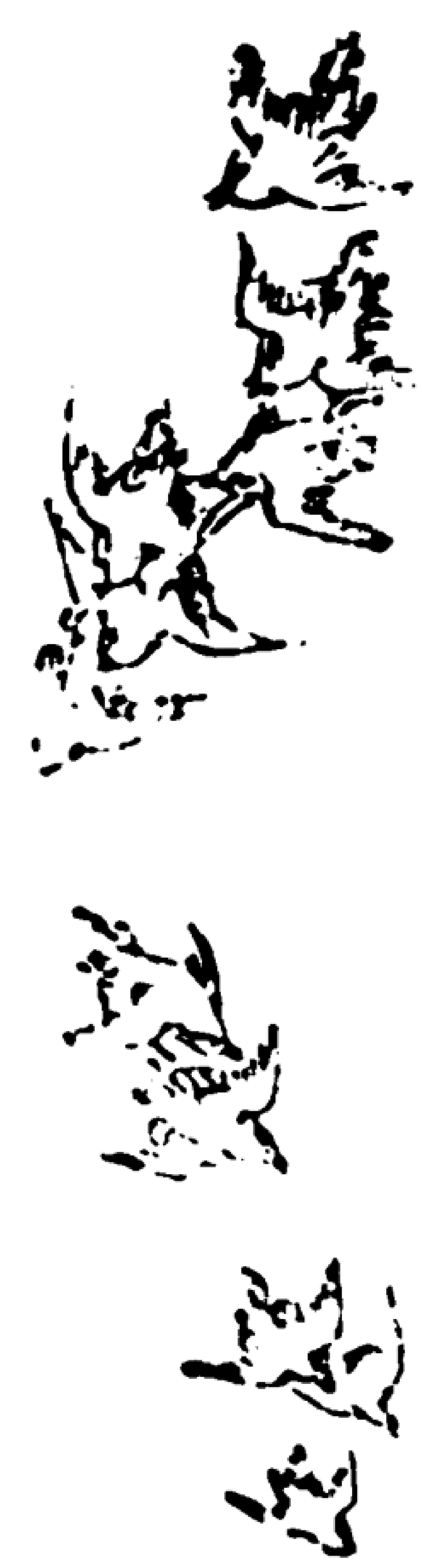
問　また質問のみ申上る次第には候へども友人と談話の末玉子の事に至り玉子ハ白味と黄味とに於て何れが滋養あるとの事に及び友人は白味が滋養ならんなぜなれば雛になるときは白味は肉の處になり黄味の處は臓腑になるとの事なり私は永らくの病氣殊に佐賀病院に入院中も白味の處すて黄味の處を食せとの醫師ありされば永らくの病氣の經驗により自分の方誠ならん殊に病によりては白味消化せずそのまゝはいせつす併しまた白味の處のみ食する病もあらんと私は申互に考へのみ自分の方が誠否と言ひ爭ふも裁判官なしの爭ひ水かけ論なれば後には御會に質問致す事に決し申候云々

解答者　本會審事員

答　毎度耳にする質問なり、素人も蛋白質の最も滋養ある食物なる事は、信じて疑わざる處なるに、搗て加へて「アイワイス」即ち蛋白質なる文字と、「アイ

ワイス」即ち雞卵の白味なる字とは、相通ずるが故に、雞卵中最も滋養ある部分は白味なりと、合點するは誠に無理ならぬ次第なり、勿論雞卵の白味も蛋白質を含む量より云へば、甚しき差違はなくして、卵黄中には一五・六「プロセント」の蛋白質を含み、白味中には一〇乃至一三「プロセント」の蛋白質を含む譯なり、されば此點より論ずる時は、御友人の所說の如く、白味も亦黄味に劣らぬ滋養食料なるが、さて消化の一段に至れば、白味は黄味に比すれば遙に消化惡しきが故に、其の蛋白質吸收せらるゝは、至て僅少となり、從つて黄味に比すれば、遙に滋養分少なきものとなるなり、されば此議論は質問者の方勝なり、又尚ほ注意し置き度き事あり、即ち御友人は、雞卵が雛に成る時は、白味は肉の所に成り、黄味は臟腑の所に成ると云はるれど、之れ大なる誤りにて、黄味も白味も決して雛の形體と成るにはあらず、雞卵中形体と成る部分は、芽胞或は芽板と稱する部分にして、(俗に之を目と云ふ) 此の芽板は一個の圓き白色の部分にて、黄味の表面に位し、黄味に比すれば輕きが故に、雞卵の位置を如何に廻轉するも、常に黄味の上側に來るが故に、左の手に雞卵を握り、右の手に錐を採りて卵殼を破らば、容易く之を見る事を得べし、百聞一見に如かされば、早速實驗し給ふべし、此の芽板の周圍は黄味の色少しく白きが故に、一層眼に着き易きなり、さて此の芽板こそ、即ち鷄の形体と成る部分にて、雞卵を親鳥に抱せるときは、(孵化せしむる事の意なり)、追々に發達して、二十一日目には遂に雛となりて、卵殼を破りて出るなり、黄味は此の二十一日間に、鷄の胎兒を養ふ食物にて、白味は以上を保護するものなり、されば抱かせて後ち十日位の雞卵を破つて見れば、白味も黄味も大に減少するを見るべし、而して二十日近くなれば、白味も黄味も殆んど消滅して、其の形を駐めざるなり、又雞卵の殼は石灰分より成り、之は雞卵が喇叭管を通過する間に、受くる處の被ひなり、總て此等の實驗は誠に面白き事柄なれば、實

問者の如く教育に從事せらるゝ方々は、閑暇の折を見て、自から實驗せられなば啻に面白きのみならず得る所決して尠なからざるべし。



大日本婦人衛生會記事

●本會六月例會景況

六月七日第一土曜日午後正一時より麹町虎の門内なる東京女學館講堂に開く前會に引續き三宅博士の家庭看護法講演及醫學博士大澤謙二氏の演説あり會長鍋島侯爵夫人にも參會せられ其他は副會長濱尾鳩山、高木、岡田、三浦の四幹事（イロハ順）評議員には松前子爵夫人宮本樂子等にして其外には特別會員伯爵夫人松平八百子以下會員及女學館生徒の多數の傍聽ありき。

●新潟支會園遊會景況

新潟支會の園遊會は五月十三日午前十時より新潟市大畑通神宮奉齋會本部境内に於て開催し當日來賓者は若杉、工藤、田代、高橋、長谷川、中村、長井、各務、の各講師を始め柏田會長、田中副會長、會員等九拾三名にして席定まるや會長代理田中夫人には一同へ懇篤なる挨拶をなし田代高橋兩氏には婦人に關する野外運動に就ての講話あり終て午餐を饗し一時間程休憩の後ち各々兼て設け置きたる「八幡しらず」を巡遊し其一定の時間内に巡遊を了へたる者には夫々賞品を出し右終りて茶菓を供し暫時休憩の後ち更らに相共に手を延ねて鬼遊びをなし（鬼は二人ハンカチにて眼を隱す）中には手を拍ちて鬼を喚ぶあり或は鬼に袂を抑へられて逃れんとするあり鬼か鬼を抑へ又は鉢合せ等にて打笑ふあり其間別席には胡弓の鳴るありて興味津々時の移るをも知らざる有様にて各自散會せしは午後四時頃にして近來稀なる盛會なりき。

因に記す十六、十七日神宮の祭典を好機として慈善縦覧券を發賣し例の「八幡しらず」を巡遊せし

め其純益を以て慈善事業の資金に充る豫定なり却て說十六日は雨天の爲め十七、十八、兩日に開催し十七日の入場者は千百人十八日は暴風烈しけれとも役員は規定の時間迄守り居りしが入場者は至て少なく僅か三百人に過ず純益金は豫想外少なきも金貳拾五圓餘なりしといふ。

●宇都宮支會園遊會景況

五月十一日同支會總會に兼て園遊會を開く會場は幹事石田つね子の好意により市の西郊重郎ヶ峰なる同子方別邸を借用せり前日來石川氏一家の人々は勿論淺田決君等殆んど徹夜の有樣にて會場一般の準備を整へらる當日は午前八時頃より會員其他同伴者等續々參集し午前十時には百四拾餘名に達せり依て渡孚貞氏立つて會長に代り開會の挨拶をなし尙幹事を代理して前年度の庶務會計の報告をなし續いて會長、副會長の改撰を行ふ但し撰擧は會員一同の同意を得て便宜上投票を行はず引續き前任の諸子へ依囑する事となしたるが滯部いく子家事上の都合に依り堅く辭任せられたるを以て前副會長石井靜子に會長を菊池すが子（新任書記官令閨）に副會長を依托して其承諾を得たり依て幹事及び評議員は追て會長より指名する事として直ちに講演に移る

一、種痘に就て　渡講師

同氏演說終る于時正午十二時なりしを以て他講師の講話は次回に讓り玆に總會を閉ぢ更に園遊會を開く數千坪に亘る庭園築山あり沼池あり松杉は綠滴るが如く幾百株の躑躅は今を盛りと紅白其妍を競へり所々の樹蔭、堤上、芝生等に淸洒なる葭簀張を設けて會員に晝餐、茶菓等を饗し別席にては點茶、三曲合奏、講談等の餘興を催し午後二時には一同揃ひて撮影し淸談、歡語、和氣靄々たる裡に閉會せるは同四時頃なりき。

當日會員の他淺田決、吉永峰九郎、白坂貞吉、渡孚貞等の諸講師列席せられたり。

又左の寄附あり

一、金三圓　諏訪前會長
一、金貳圓　水本評議員
一、點　茶　堀川敬氏
一、三曲合奏　だてや連

●茨城支會報告

茨城支會にては本月廿五日午前九時より水戸常盤公園内好文亭に於て春期總集會を開き一、婦人の勸農學士中村鼎氏、二、普通看護法醫學士波多野諄氏次に會務の報告及役員の改選を行ひ次に我國の母親及び女子教員諸子に希望すと云へる演題にて女子高等師範學校教授安井哲子女史の演説ありて近來稀に見る所の盛會なりき而して當日の出席者は會員及傍聽者共三百餘名なりき。

●山形支會報告

五月二十六日山形市なる庄田館に於て例會を開き中原醫學士には救急止血法に就て講話せられ四時散會せりといふ

●高崎支會報告

左の祝辭祝歌等は同支會發會式の際朗讀せられし者に係るを餘白なきの故を以て本號に登載することゝはなしぬ

祝辭

不肖八郎淺學にして未だ衛生の範圍を解するを得ずと雖も謹し健康保全の外に出でざるべきを信ず若し果して然らば之を如何せば可ならんや其方法多々あるべしと雖も先以て一身一家より隣伍相互に攝生清潔運動節度の方法を講し以て之を行ふに若かざる而已矣今や婦人衛生會支會を本市に設立せられ令閨貴嬪相會し前途の衛生を講究し本市をして將來無痾無病の快樂地たらしめんとす其慈其愛實に深く實に傳しと云ふべし不肖八郎伏て會員たる令閨貴嬪に望む請ふ自今而後健康保全の一大責任に當り須らく衛生事業の艱難に耐へ小心翼々として効果を奏せられんことを不肖八郎支會設置の榮擧に感激し蕪辭を顧らず謹て發會の祝辭に代ふ

明治三十五年五月十一日

高崎市長　矢島八郎

祝　辭

衞生に公私の別あり一を公衆衞生と云ひ一を個人衞生と云ふ公と云ひ私と云ふ名目既に大に異なる所あるが如きも其關係たるや密邇して相離る可らず而して其本末如何を論ずれば個人衞生は本にして公衆衞生は末なり若し夫れ其末たる公衆衞生にのみ完備を望むも個人衞生の智識なくんば諸般の制度を設け多大の公費を投ずるも公衆衞生終に其實効を奏せずして止まん然らば公衆衞生の普及を欲すれば先づ個人衞生の發達に頼らざる可らず熟々吾人生活の實際に驗するに男子の關係する所は寧ろ其一小部分に過ぎざるも大抵の事物は擧て之を婦女子の管轄に一任し衣服飮食は勿論日常起居の事一として婦人の手を假らざるものなし於是乎知る婦女子は必らず特に衞生の智識を要するものにして個人衞生の本家本元たることを然るに我國の現狀に顧れば未だ婦女子に向つて衞生智識を普及發達せしむべき施設一として備らず豈慨歎に勝ゆ可けんや

於戲事々物々一に衞生の學理に協ひ生活法あり息災延命吾人の健康をして全く遺憾なきの秋に遭遇することを得せしむるは抑も亦何れの日歟予茲本春畏友横非氏の嚮により私立大日本婦人衞生會を紹介せらるゝに會ひ有志有爲の各賢婦人期せずして相響應し續々賛同加盟せらるゝあり忽にして高崎支會の創立を見る會員百四十有餘名盛し盛なり矣と謂ふ可し是れ職として主唱者其人の周旋盡力の宜しきに出ると謂ふと雖も抑亦賢明なる會員諸姉の奮發と目下社會の必要之を歡迎するに由るものなくんばあらず凡そ事始めあらざる莫く能く終り有る鮮し矣冀くは會員諸姉終始當初の志を一貫し普く個人衞生の本旨を了得せられ小にして一家の福祉健康を增進し大にしては國家の爲に公衆衞生の缺漏を裨補せられんことを聊か蕪辭を陳して本會前途の發達を祝すと云爾

明治三十五年五月十一日

私立高崎病院長醫學士　林　曄　禮

●華祭の頃大日本婦人衞生會高崎支會の創立せられ開會の盛式を見るに

陸軍一等軍醫正七位勳六等　横　非　忠　國

つれ〴〵に若菜さし添ふ姫小松
　千代の榮は色に見えけり

おのか身を衞るみなもと汲見れ姿
　御國をおもふ誠なりけり

●開會をほきて　評議員　横　非　昇　子

うらやみし都の花をうつしきて
　けふ咲き初めにかなゐたのしさ

萬代の榮そしろし姬小松
　名も高崎に生ひ茂りつゝ

●支會の創立を祝ひて　幹事　林　磨　智　子

生ひいてしふたはの松もけふよりは、ときはかきはに榮ゑゆくらむ松か枝のめくみのかけに嬉しくも、千とせをよそふひなつるのこゑ

●ほきこと

あはれうれしきかもあはれよろこばしきかも今日のまとゐのみ於の末に常世雁のうちつらなりつゝ數ならぬ身も顧みて一首をほきまをさん抑〳〵衞生といふ事は國をおもふこゝろの厚き極みならずやさ

れは日に月に驟進にすゝみいやひらけに開らけゆきて萬のものにみち足らひ國内はおろか波路はるけき外國までも交りふかくむつひあひ行かひ繁き御代とはなりて男は更なり女とて國のためには水くかはれ草むすかはれ盡すべき身のいかて衞生を守らてやはあるべき古人いへるをあり女子は國家の基礎をいたすとかく大なる勤あるも衞生に寄らずしては其兒をあぐる事あたはざるべし親に孝ならむとすれとも己か身に惱ひある時はおの〳〵に父母の心を痛ましむるのみ父母病ひある時は孝子のもつとも力をいたすべきの秋也といにしへの聖もいひおかれたりあはれ衞生を守らざれば孝も又盡す事難し夫に貞をたてんとおもふもわが身がよわければ家内のおきても自ら調はずして兒童の教もゆるかせになりゆけば終に失敗の中もうと〳〵敗なりはつる例は世に少なからすこも又衞生によらずしてほかにせむすべやはあるかく何事によれ衞生は共に〳〵ちからを川ゐるのいとも〳〵北事なき道にしあればこゝにつとへる友とちよ今日をはじめに千代かけてこゝろひとつにむつはひかたらひつゝ高き賤しき別なく糸繰る少女薪拾ふ賤の女も其程〳〵に御國の爲め身を養ひまもりて木花の花咲匂ふ春の日の光りと共に衞生の道ひらけゆく事を勉めさらめやもつくさゝらめやも

これやこの今日のまとゐの嬉しさに
　齢ものふるこゝ地こそすれ

明治三十まり五とせ
五月雨月の十まりひと日　評議員　相川彭嫁子

―――〳〵〳〵〳〵〳〵〳〵〳〵〳〵―――

●衞生婦人會をほきて　國語學校長　深井仁子



老す死なぬ藥をうるはおのつから
　けふのまとゐの園に社あれ

●本會入會者

○豆州　有川仙子紹介
●埼玉縣北足立郡鳩ヶ谷町百七十四　通常會員　田畑和か子

○淺草　百瀬きよ子紹介
●淺草區東仲町廿七番地　通常會員　吉川きよ子

○事務所申込
●大坂市南區高津町一番町廿番邸　通常會員　高津まつ子

○長野　田中瀧三郎君紹介
●長野縣下高井郡平穩村字湯田中　通常會員　中島鶴子
●仝縣仝郡中野町字小館　通常會員　曾我ゆう子
●仝縣仝郡夜間瀬村　賛成員　常田蕉君
●長野市裏權堂町　通常會員　小林はる子

○日本橋田村きよ子紹介
●日本橋區本町四丁目十五番地　●●●特別會員　島田ひで子
●仝　所　●●●特別會員　島田こう子

○長野　田中瀧三郎君紹介

●長野縣下高井郡平岡村字竹原
○麹町　駒井政子紹介　通常會員　市川ふじの子
●麹町賀陽病院内
○麻布　池田とき子紹介　通常會員　朝永たつ子
●京橋區松川町八番地
○本會事務所申込所　通常會員　間瀬てつ子
●茨城縣土浦城町
○高崎特賛横井忠國君紹介　通常會員　菊地榮子
●長野縣更級郡鹽崎村二十三番地　通常會員　小林よしの子

●高崎支會入會

○評議員　横井昇子紹介　通常會員　相澤小松子
●高崎市　通常會員　安松きく子
●仝　上
○評議員　今井ぶん子紹介　通常會員　松尾好子
●高崎市
○仝　粟野まる子紹介　通常會員　中島きよ子
●高崎市
○仝　相川すが子紹介　通常會員　三田くら子
●高崎市
●仝　上　通常會員　樋口しま子
○幹事　齋藤れう子紹介　通常會員　山田ふく子
●高崎市
○高草木かね子紹介　通常會員　今井さは子
●高崎市

○大山うら子紹介　通常會員　二ッ木ぎん子
●高崎市　通常會員　室岡とよ子
●仝　上　通常會員　諏訪せん子
●仝　上
○副會長　星野きよ子紹介　通常會員　清水わい子
●高崎市
○仝支會入會　通常會員　島谷宇多子
●高崎市八島町日鐵社宅内壬第一號

●宇都宮支會入會

●宇都宮市西塙田町　通常會員　菊地すが子
●仝　通常會員　中村ふみ子

○淺草　百瀬きよ子紹介（本會入會者）　通常會員　飯島ふく子
●淺草區淺草仲見世金龍山鬮家花月堂
○事務所申込　通常會員　小田島豊子
●陸奥二戸郡淨法寺村一五
○大森　西さく子紹介　通常會員　山路末子
●麻布區白金台町一丁目四十五
○事務所申込　通常會員　野上きゑ子
●麹町區山元町一ノ七　通常會員　梅澤千代子
●日本橋區久松町廿九杉浦方

日本橋區久松町杉浦方　通常會員　岸　とよ子
●赤坂區新坂町七十二　通常會員　宇治川なを子
●日本橋區濱町一丁目　通常會員　安達　みつ子

○本鄕　石井ふみ子紹介

●本鄕區丸山福山町二十　通常會員　川島　けい子

○本鄕　杉本りせ子紹介

●本鄕區駒込動坂町駒込病院　通常會員　鵜澤　ちか子

○本鄕　木村いは子紹介

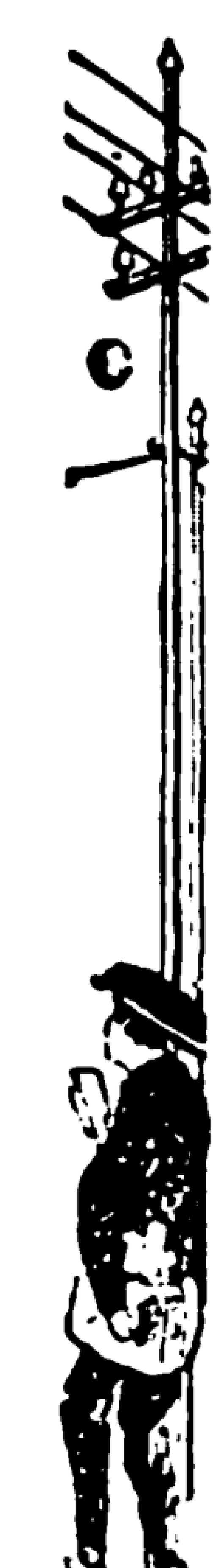
●本鄕第一醫院　通常會員　山本　のぶ子

●正誤

前號雜誌高崎支會發會式順序中祝電祝歌（六號活字の分）横井及稻垣氏を一等軍曹とせしは一等軍醫又全會寄送金中富田たか子は宮田又入會者の部紹介者田村きく子はきよ子同入會者三名の宿所を看護婦人會とせしは看護婦會の誤り

○竹中醫學寄書中青木病院とあるは青森又二段五行目「空病」は空氣東宮殿下行啓の衞生思想とあるは「と」の誤

轉居



▲會員諸氏御轉居の際は可成新舊兩所御記入事務所宛必ず御一報相願候

●麻布區飯倉片町三十番地へ　吉野仲子
●日本橋區龜井町三番地へ　山木しげ子
●京橋區木挽町一丁目十一番地へ　安藝てつ子
●神田區小川町二丁目九番地へ　江崎たま子
●小石川區久堅町十二番地へ　吉田せつ子
●靜岡市安西一丁目南裏町四十九へ　加藤山起子
●麹町區土手三番町三十三へ　宇故かつ子
●臺灣台南城內打銀街十六番地へ　三宅八眞子
●麻布區宮村町九番地へ　井倉醴子
●高崎支會へ轉入　蜂谷繁野子
●本所區橫網町二丁目七へ　荒井多燕子
●麹町區中六番町廿七へ　家坂みよの子
●高崎市高崎病院へ　村松しん子
●熊本縣飽託郡島崎村字厩坍へ　成瀨しげ子
●岡山縣西中山下二丁目六十番地へ　山川春二君
●神田區鍋町十一番地へ　立川米子
●麻布區龍土町五十八へ　小田切沺の子
●栃木縣宇都宮市旭町三丁目三四二三、の十一　島橋鋭子
●大坂東區常盤町一丁目一番屋敷へ　板垣芳子
●大阪市西區江ノ子島官舍へ　大村安子
●芝區愛宕町二丁目五番地へ　渡邊錄子
●向島寺島新田二千七へ　櫻井和香子
●本鄕區弓町一ノ廿六美術學校內へ　中島条子
●京橋區木挽町一ノ十四へ　高山らく子
●高崎市宮元町百五番ノ二へ　習田文子
●長野縣東筑摩郡松本町字片端町へ　那須久江子
●麻布區櫻田町廿四川瀨氏方へ　太田梅子
●長野縣本築摩郡里山邊村字湯之原へ　小林喜直君
●府下豐多摩郡千駄ヶ谷村三六一へ　乃木千世子
●淺草區橋場町有馬屋敷內へ　木の下かく子
●牛込區喜久井町二十へ　田沺やす子

◉寄送交換雜誌（四月五月分）

●坂東日報	第九十七號	埼玉坂東日報編輯所
●日本婦人	第三十號 第三十一號	東京帝國婦人協會
●日本赤十字	第百九號 第百十號	東京日本赤十字發行所
●日本橋區衛生協會雜誌	第六十二號	日本橋區衛生會
●新潟縣衛生會雜誌	第十二號	新潟縣衛生會
●防長醫事	第九號 第十號	山口防長醫事社
●豐國新聞	第二年第廿九號	京都豐國新聞社
●統計集誌	第二百五十三號 第二百五十四號	東京統計協會
●東京教育雜誌	第百四十九號 第百五十號	東京教育雜誌發行所
●學界時報	自第一號至第五號	東京學界時報社
●體育	第百一號 第百二號	日本體育會
●大日本私立衛生雜誌	第二百二十七號	大日本私立衛生會
●大日本婦人教育會雜誌	第百四十四號	大日本婦人教育會
●團々珍聞	自第一三六九號至第一三七三號	東京珍聞館
●獵友	第三卷四號	東京狩獵協會
●通俗衛生	第四十五號	大坂私立衛生會
●農商新報	第十二號 第十三號	農商時報發行所
●大坂通商新聞	第五號 第六號	大坂通商新聞社
●苦學界	第十五號	苦學社
●藥石新報	自第四二三號至第四二八號	大坂藥石新報社

●藥學雜誌	第二百四十二號	東京日本藥學會
●藥局新報	第十六號	藥局新報社
●健康の栞	第十一號	健康の栞社
●婦人新報	第六十號 第六十一號	東京婦人新報社
●婦女新聞	自第百號至第百六號	東京婦女新聞社
●婦人と子ども	第二卷四號 第二卷五號	東京フレーベル會
●婦人世界	第十二號	大坂浪華婦人會
●國家醫學會雜誌	第百八十號	東京國家醫學會
●工業雜誌	自第十六卷二四一號至第十六卷二四二號	東京工業雜誌社
●愛國婦人	自第三號至第五號	東京愛國婦人發行所
●產婆學雜誌	第二十八號 第二十九號	東京日本產婆學協會
●山陽新報	第六九五三號	岡山山陽新報社
●草樂新聞	自第二四一號至第二四五號	大坂草樂新聞社
●教育實驗界	自第九卷七號至第九卷十號	東京育成會
●躬行會誌	第二號	東京躬行會
●齒學研鑽	第三卷二號	東京高安齒科治療所
●實業新聞	第一五三五號 第一五五〇號	和歌山實業新聞社
●女界	第二號	東京白鳳社
●越佐教育雜誌	第百十二號 第百十三號	越佐教育會雜誌社
●廣島衛生醫事月報	第四十號 第四十一號	廣島衛生醫事月報社

私立大日本婦人衛生會茨城支會規則

第一條　開設の趣旨及目的　凡人生の幸福を保持するには完全なる教育を習まざる可からず之を望まんとするには必や衛生と相竢ちて而る後ち始めて全き事を得るならん。　されば吾人は現今東京に於る該本部に陳して更に茨城支會を開設し吾人が日常實行する衛生上の事項なして益研究し益改善を圖りてその發達を互に努め力めんとするに在る而已●第二條　本會は私立大日本婦人衛生會茨城支會として之を當水戸市に置く●第三條　本支會々員たるを望む婦人は何人にても入會することを得●第四條　入會手續入會の節は氏名族籍住所等を明記し本支會事務所に申込むものとす。　但し會員證は東京本部へ通知し然るのち之を交附すと雖とも徽章代は豫め前納せらるへし●第五條　會員種類　會員を分ちて特別。通常。終身の三種とす終身會員は一時に金拾圓以上特別會員は一ケ月金二拾錢以上通常會員は一ケ月金拾錢を納むること●第六條　男子にして本支會の趣旨を贊成する者は之を贊成員とす　其の會費は本支會員に全じ但し本支會に功勞ある者又は本支會に於て贊成員たることを望みたる節は役員の協議に依り無會費とすることあるへし●第七條　本支會員は本部にて毎月發刊する雜誌を無料にて受くることを得●第八條　退會せんとする者は其旨本支會事務所に報知すへし。(死亡等は親戚知人より通知せらるへし)●第九條　本支會に左の役員を置く支會長一名、副支會長一名、幹事六名、評議員十名、書記、會計、庶務は幹事中より各二名づゝ互撰分擔す●第十條　役員は任期滿一ケ年とし毎年五月總會に於て投票を以て之を定む●第十一條　本支會長は本會を總理し副支會長は支會長を補佐し會長事故ある時は之を代理し幹事は會務を掌理し　評議員は重要なる會務を評議し會計書記庶務各其事に當る(但し書記は都合により定員外のものに臨時依托する事あるへし)●第十二條　集會は例會總會評議員會及臨時會とす集會八月を除く外毎月一回第三の日曜日に之を開く總會五月適宜の日を以て之を開く急要の件あるときは臨時會若くは評議員會を開きて評議する事あるへし●第十三條　毎會學識經驗ある知名の士に囑托して衛生上の講義演說　又は之に關したる實驗等をも爲し本支會員に聽講せしむ但し會員は知人家族等誘引して參會することを得(此際出席の衣服は總て質素たるへし)●第十四條　講義演說等は男子の傍聽を禁ず但し贊成員若しくは會員の緣故ある男子は此限りに非ずと雖本支會の都合により臨時謝絕することあるへし●第十五條　會費開會の實況等を本部へ送致するものとす●第十六條　會計本支會の所有金は本支會の名義を以て第一百四銀行に預け置くものとす●第十七條本支會々費の收入金は其一部を便宜本部へ回送するものとす●第十八條　總會に於て會計の收支決算及成績等を報告するものとす●第十九條　會員中若し本會の障害となるへき所爲ある者　又は會費を滯納するものある時は本支會長評議會の決議を經て除名する事あるへし●第二十條玆に記述したる數條の他その必要と認むへき事項あらば成る可く本部の規則を適用するものとす●第二十一條　本支會規則は本支會長の意見又は會員二十名以上の贊成により總會の意見を經るに非ざれば沒に之を變換する事を得す。

明治三十四年十月創立

水戸市上市田見小路二十五番地

茨城支會

私立大日本婦人衛生會高崎支會規則（明治三十五年四月創立）

●第一條　當支會は大日本婦人衛生會に屬し汎く婦人をして人生の健康を保持する方法を講究し衛生上の智識を開發せしめ隨て社會全般の幸福を增進するを目的とす●第二條　當支會は大日本婦人衛生會高崎支會と稱し事務所を高崎市寄合町五十番地に置く●第三條　當支會は高崎地方在住の本會々員と支會員とを以て組織す●第四條　本會又は支會の會員たらんとする者は住所姓名及び會員の種類を詳記し三個月分以上の會費を添へ申込まるへし●第五條　當支會に學術其の他の稗益を與へらるゝ人士を推して講師又は篤志贊助員となす●第六條　當會員にして轉居死亡又は退會の時は速に其旨事務所に通報せらるへし●第七條　支會に左の役員を置く會長一名副會長一名幹事六名評議員十二名●第八條　役員は會員中より公撰し會長副會長は役員中より互撰す又幹事評議員は役員中より會長之を指名す　但役員の任期を一箇年とし再撰するを得●第九條　本會の特別贊成員を定員外の評議員とす●第十條　當支會は毎月一回講話會を開き毎年一回總會を開く者とす　總會に於ては講話の外役員の改撰會務の報告等をなす●第十一條　會員及贊成員の家族並に篤志贊成員は集會に參列するを得　但時宜により男子の參列は謝絕することあるべし●第十二條　本會々員は本會費の外別に支會費を要せす支會限りの會員は支會費として一箇月金五錢を出す者とす●第十三條　總て會費の徵收は集會の席上に於てするを例とす　但三箇月分以上宛前納すべし●第十四條　支會の所有金は支會の名義を以て銀行に預け置くものとす●第十五條　會員又は會員外より金員物品の寄附ある時は之を受納す●第十六條　本會所有の金員物品を慈善事業等に使用せんとするときは衆議に諮るものとす●第十七條　會員は服裝其他を質素にし集會の節は時間等を確實に履行すべし●第十八條　特に此規則に揭けざる者は本會の規則を準用す●事務所　高崎市寄合町五十番地

私立大日本婦人衞生會

新潟支會規則

●第一條 本會は大日本婦人衞生會に屬し婦人衞生の研究を目的とし兼て一般慈善事業を爲すにあり●第二條 當支會の會費は左の六種とす終身會員一時限り出金貳拾圓 特別會員毎月金參拾錢通常會員仝金貳拾錢 支會員甲毎月金拾錢乙仝金五錢●第三條入會せんとするものは役員に申出て其承認を得べし●第四條會費毎月拾五錢以上を納むるものには本會衞生雜誌を配布す●第五條 會費は雜誌料として一部を本會へ納め殘金は銀行へ貯蓄してて 衞生慈善資金とす●第六條 支會には會長一名副會長一名評議員十五名幹事五名理事一名を設く會長副會長は總會に於て公撰し評議員幹事は會長之を撰任す各役員の任期は一ヶ年とし再撰するを得役員は總て無給とす●第七條 支會は毎月六日通常會を開き衞生及び慈善に關する演説をなすべし●第八條 毎年一月總會を開き支會の要務を擧行す●第九條 本會は毎年春期懇親會を催し時宜によりては慈善販賣店慈善演藝會等を開くこととあるべし●第十條 天災事變に際し慈善救濟を要する場合に於ては特に會員中の 有志者より物品の寄附を募ることあるべし會員外の篤志者より臨時金品の寄附あるときは役員の協議を以て特待員又は賛成員となすべし●第十一條 一般慈善事業の贊助天災事變の救濟の事務は役員會の決議により實施するものとす●第十二條 支會々員は服裝其他を質素にし集會の際は成可く綿服を着用すべし●第十三條 特に本規則に揭げざるものは私立大日本婦人衞生會の規則を準用す

明治廿九年四月創立 新潟支會

事務所新潟市旭町一番町十番戸 河上フサ子方

私立大日本婦人衞生會

山形支會規則

第一條 本支會は私立大日本婦人衞生會々員山形市在住者を以て組織す●第二條 本支會に會長副會長の外幹事四名商議員若干名を置く會長副會長は公撰し幹事商議員は會長之を撰任す 役員の任期は一ヶ年とす●第三條 本支會は毎月一回(第一日曜日)講話會を開き毎年一回五月に總會を開き講話の外役員の撰舉庶務會計の報告をなす●第四條 入會せんと欲するものは宿所姓名並に第五條の通り會費を添へ會員に紹介を依賴すべし 本支會を退會せんとする時は其旨幹事に申出づべし●第五條 本會々費は會計幹事に納むべし但し六ヶ月又は一ヶ年分新に入會のものは其月より 六月又は十二月迄の分を一時に納むべし●第六條 服裝は精誠質素なるを要す上着及羽織は綿布を用ゐるを禁ず

明治三十三年二月四日創立

事務所山形市旅籠町新築四通二百八十九、北島氏方

山形支會

私立大日本婦人衞生會

宇都宮支會規則

第壹條 本支會ハ私立大日本婦人衞生會宇都宮支會ト稱ス●第貳條 本支會ニ會長一名副會長一名評議員拾五名幹事四名ヲ置ク會長副會長ハ公撰シ評議員幹事ハ會長之ヲ撰任ス各役員ノ任期ハ一ヶ年トス●第參條 毎月壹回(第一日曜日)講話會ヲ開キ毎年五月講話ノ外役員ノ改撰庶務會計ノ報告ヲナス●第四條 入會ハ宿所姓名ニ第五條ノ通リ會費ヲ添ヘ事務所ヘ申込ミ又ハ會員ニ紹介ヲ依賴スベシ 本支會ヲ脫シ又ハ本會ヲ退會セントスル片ハ其旨事務所ニ屆出ツベシ●第五條 本會々費ノ外別ニ支會々費ヲ要セズ會費ハ一時ニ六ヶ月又ハ十二ヶ月分、新タニ入會ノモノハ其月ヨリ六月又ハ十二月迄ノ分ヲ納ムベシ●第六條 本支會ハ別ニ支會々員ヲ設キ支會會費トシテ一ヶ月金五錢ヲ納ムルモノトス●第七條 講話會ニ出席ノ節ハ成ルベク家族又タハ知合ノ婦人ヲ誘引シ陪聽セシムベシ●第八條 服裝ハ精誠質素ナルヲ要ス上着及羽織ハ綿布ヲ用フルヲ禁ズ●第九條 特ニ支會規則ニ揭ケザルモノハ本會ノ規則ヲ準用ス

明治三十四年二月三日創立

事務所宇都宮市馬場町

宇都宮支會

婦人衛生雜誌第百五十一號每月一回十五日發行
明治卅五年六月十五日印刷 同 年六月十五日發行

明治二十六年(第三種郵便物認可)明治三十一年(内務省許可)

私立大日本婦人衛生會徽章規程

第一條 大日本婦人衛生會々員は其會員たることを表章するため左の徽章を用ゆ

第二條 會員章は本會幷に支會の集會に出席する場合は勿論襟止兼用の便あるを以て成るべく平素佩用して廣く本會の普及を圖るを要す

第三條 本會徽章は左の實價を以て會員に頒つ





●通常會員章

第一號 メッキ製拾五錢、送料六錢

第二號 正銀製五拾錢、送料六錢

●終身及特別會員章

第三號 壹圓、送料九錢

御入會注意

御入會の際は三ヶ月以上の會費前納にて申込まるへし 會員章は上段記載の實價にて御頒ち申候へども送料とも必らす御前納のこと

東京府下に限り毎月會費領收人を差出すべしと雖も 郡部の方は地方會員の部として領收者差出不申候也

追て支會々員は支會へ會費御納付のことゝす

一 會費は郵便小爲替にて本會事務所々在の郵便局(東京牛込郵便局)宛振出あるべし又價格表記通運便、何にても差支なし

一 會費受領證を要する節は送料として郵券一錢五厘封入せられたし

一 轉居せられたるときは其旨必らず本會事務所宛通知せらるべし

一 會員中若し本會の障害となるべき所爲ある者又は屢々會費を督促するも納付せざるものは役員會の決議を經て除名し若くは廣告することあるべし

廣告料	一行	十錢
	一頁	參圓
	總て前金	

本誌定價一部廿錢 毎月一回發行

東京市牛込區矢來町三番地中九、四
發行所 私立大日本婦人衛生會
編輯兼發行者 東京牛込區矢來町三番地 田中徳三郎
印刷者 東京牛込區市ヶ谷加賀町一丁目十二番地 戸上義章
印刷所 東京牛込區市ヶ谷加賀町一丁目十二番地 株式會社秀英舍第一工場